シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	保育実践演習		
必修選択	選択	（学則表記）	保育実践演習		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	０～５歳児の発達にあったあそびパーフェクトＢＯＯＫ		出版社	ナツメ社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	実際の保育現場における設定保育や園行事の運営を模擬的に体験し、行事の成り立ちを理解し、留意点に気づく。 子どもの育ちと遊びの関連性について理解し、具体的な遊びを立案、実践できる。
到達目標	①指定保育士養成施設における教育課程の全体を通して、保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観などが習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。 ②保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。 ③①及び②を踏まえ、自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着をさせる。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	なし
関連科目	実習指導Ⅲ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	宮本　園望	実務経験	○
実務内容	知的障がい児入所施設1年、保育士13年(主任、園長含む) ベビーマッサージインストラクター13年、東京都訪問保育(ベビーシッター)半年、

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	・授業ガイダンス	・授業概要、ねらいなどの説明 ・これまでの授業の振り返り
2	・遊びのどうしよう？対処法 ・第1章　ふれあい遊び	・あそびの中での「どうしよう」について考える ・あそびから育ちを知る
3	・第1章　ふれあいあそび	・ふれあいあそびの立案・準備 ・ふれあいあそびの模擬保育（グループ内発表）
4	・第1章　ふれあいあそび	・ふれあいあそびの模擬保育（全体発表） ・ふれあいあそび振り返り、発表のフィードバック
5	・第2章　運動あそび	・身体を使ったあそび ・年齢の応じた運動遊びについて知る・立案

6	・第2章　運動あそび	・運動あそびの模擬保育（全体発表・フィードバック）
7	・主体性保育	・主体性保育の意義を知学ぶ
8	・主体性保育	・制作活動における主体性保育の実践 ・解説と振り返り
9	・模擬行事①　運動会	・運動会の計画、役割、導入について知る ・運動会のテーマ、プログラム内容決め（模擬職員会議）
10	・模擬行事①　運動会	・運動会の準備 ・大道具、小道具準備
11	・模擬行事①　運動会	・運動会のリハーサル ・運動会の実践
12	・知育あそび	・知育あそびについて学び、おもちゃを作成する
13	・模擬行事②　避難訓練	・避難訓練について知る ・訓練の種類ににについて考え、計画する
14	・模擬行事②　避難訓練	・避難訓練についての発表、振り返り
15	・ちょこっとあそび	・ちょこっとあそびについて ・ちょこっとあそびの発表、振り返り
16	・第4章　造形あそび	・あそびから育ちを知る ・年齢に応じた造形あそびを立案する
17	・第4章　造形あそび	・あそびから育ちを知る ・年齢に応じた造形あそびを立案する
18	・第4章　造形あそび	・年齢に応じた造形あそびの発表、フィードバック
19	・模擬行事③	・成長を祝う行事について知る ①誕生会　②こどもの日　③七五三　④ひな祭り
20	・模擬行事③　誕生会	・模擬行事（誕生会）の準備 ・誕生カード制作
21	・模擬行事③　誕生会	・誕生会の実施、フィードバック
22	・模擬行事④　発表会	・発表会の計画、役割、導入、準備について知る
23	・模擬行事④　発表会	・衣装、大道具、小道具作成、シナリオ、BGMなど準備の進め方を学ぶ
24	・模擬行事④　発表会	・衣装、大道具、小道具作成、シナリオ、BGMなど準備の進め方を学ぶ
25	・第5章　集団あそび	・集団あそびについて知る
26	・第5章　集団あそび	・集団あそびについて知る
27	・伝承遊び	・伝承遊び・昔遊び～昔から親しまれている日本の遊び ・伝承遊びの実践
28	・第6章　季節あそび	・季節ならではのあそびを知る
29	・第7章　言葉あそび	・言葉のおもしろさを伝える遊びの体験
30	・年間授業振り返り	・7つのあそびから育ちを知る振り返り ・年間の模擬保育、模擬行事の振り返り、フィードバック

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	子どもの安全管理		
必修選択	選択	（学則表記）	子どもの安全管理		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	1	30
使用教材	写真で学ぶ　保育現場のリスクマネジメント		出版社	中央法規出版	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	実践的な傷害予防を身につける		
到達目標	子どもの事故予防として、効果のない方法と効果のある方法の違いを知る どのようにすれば事故を予防できるのかを具体的に考え、行うことができる。		
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。		
関連資格	なし		
関連科目	なし		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	飯塚　大輔	実務経験	○
実務内容	保育士現場経験9年、現場兼主任2年、施設長7年、認定こども園副園長3年目、系列保育士養成科講師経験4年		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	第1章　リスクマネジメントって何？	保育とリスクの関係
2	第1章　リスクマネジメントって何？	リスクって何だろう？
3	第1章　リスクマネジメントって何？	リスクと向き合おう 園のリスクマネジメント
4	第1章　リスクマネジメントって何？	リスクマネジメントのポイント ワーク（①遊具・物　②日常の風景）
5	第1章　リスクマネジメントって何？	リスクの予防　①人から考える
6	第1章　リスクマネジメントって何？	リスクの予防　②物から考える
7	第1章　リスクマネジメントって何？	保育者の役割

8	第2章　場面別　リスクの予防と対策	開園準備 登園
9	第2章　場面別　リスクの予防と対策	園児の受け入れ 保育環境の準備
10	第2章　場面別　リスクの予防と対策	異年齢保育 ワーク（③横断歩道）
11	第2章　場面別　リスクの予防と対策	全体保育 職員間の申し送り
12	第2章　場面別　リスクの予防と対策	屋外から室内への移動 園内での移動
13	第2章　場面別　リスクの予防と対策	ワーク（④総合遊具
14	第2章　場面別　リスクの予防と対策	活動の種類による対応①　室内での設定保育（制作活動） 活動の種類による対応②　室内での設定保育（遊び）
15	第2章　場面別　リスクの予防と対策	活動の種類による対応③　設定保育（園庭での活動）
16	第2章　場面別　リスクの予防と対策	散歩・移動
17	第2章　場面別　リスクの予防と対策	公園
18	第2章　場面別　リスクの予防と対策	トイレ・手洗い場
19	第2章　場面別　リスクの予防と対策	昼食
20	第2章　場面別　リスクの予防と対策	歯みがき
21	第2章　場面別　リスクの予防と対策	午睡
22	第2章　場面別　リスクの予防と対策	ワーク（⑤給食）
23	第2章　場面別　リスクの予防と対策	おやつの時間
24	第2章　場面別　リスクの予防と対策	降園
25	第2章　場面別　リスクの予防と対策	異年齢保育・延長保育 閉園作業
26	第2章　災害へのリスクマネジメント	災害と園 日常の災害対策　①対応マニュアルの整備
27	第2章　災害へのリスクマネジメント	日常の災害対策　②避難訓練　③保育環境の整備
28	第2章　災害へのリスクマネジメント	日常の災害対策　④地域とのかかわり
29	第2章　保護者とともに確保する子どもの安全	保護者の役割とは？
30	第2章　保護者とともに確保する子どもの安全	園の取り組みを家庭・地域に発信する

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	子どもの文化		
必修選択	選択	（学則表記）	子どもの文化		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	1	30
使用教材	児童文化が開く豊かな保育実践		出版社	（教育情報出版）保育出版社	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	児童文化について理解し、保育で生かせる実践力を身につける。		
到達目標	①様々な児童文化財の特徴や役割を理解し、説明できる。 ②保育現場における具体的展開のための技術を習得し、実践ができる。 ③子どもの生活と遊びの環境を工夫し、実践で応用できる。		
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。		
関連資格	なし		
関連科目	なし		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	山口　洋子	実務経験	○
実務内容	幼稚園教諭、障害児施設職員として勤務		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ・到達目標・評価について
2	児童文化について	児童文化について
3	児童文化とは① 伝承文化・年中行事とは	伝承文化・年中行事について
4	児童文化とは② 春の行事	端午の節句について
5	シアターの基礎知識 シアターを生かした保育とは	シアターの種類 シアターをいかした保育とは
6	春・夏の行事と保育①	春夏の保育にいかせるグッズ製作（パネルシアター、ペープサート、スケッチブックシアター、他）
7	春・夏の行事と保育②	春夏の保育にいかせるグッズ製作（パネルシアター、ペープサート、スケッチブックシアター、他）
8	春・夏の行事と保育③	春夏の保育にいかせるグッズ製作（パネルシアター、ペープサート、スケッチブックシアター、他）

9	春・夏の行事と保育④	春夏の保育にいかせるグッズ製作（パネルシアター、ペープサート、スケッチブックシアター、他）
10	春・夏の行事と保育⑤	春夏の保育にいかせるグッズ製作（パネルシアター、ペープサート、スケッチブックシアター、他）
11	童謡の基礎知識	童謡をいかした保育とは
12	夏の行事	七夕について
13	手遊びの基礎知識	手遊びをいかした保育とは
14	秋の行事	お月見について
15	前期の振り返り	前期の振り返りテスト
16	児童文化施設とは	児童文化施設について
17	絵本・紙芝居の基礎知識①	絵本・紙芝居をいかした保育とは
18	絵本・紙芝居の基礎知識②	紙芝居の実践
19	秋・冬の行事と保育①	秋冬の保育にいかせるグッズ製作（スケッチブックシアター、パネルシアター、ペープサート　他）
20	秋・冬の行事と保育②	秋冬の保育にいかせるグッズ製作（スケッチブックシアター、パネルシアター、ペープサート　他）
21	秋・冬の行事と保育③	秋冬の保育にいかせるグッズ製作（スケッチブックシアター、パネルシアター、ペープサート　他）
22	秋・冬の行事と保育④	秋冬の保育にいかせるグッズ製作（スケッチブックシアター、パネルシアター、ペープサート　他）
23	秋・冬の行事と保育⑤	秋冬の保育にいかせるグッズ発表
24	伝承遊びの基礎	伝承遊びとは
25	伝承遊び①	伝承遊びをいかした保育・実践(わらべ歌)
26	伝承遊び②	伝承遊びをいかした保育・実践(お手玉・あやとり)
27	冬の行事①	正月・節分について
28	冬の行事②	ひな祭りについて
29	後期のまとめ	後期の学び振り返りレポート
30	総まとめ	１年間を振り返り今後の課題について考える

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	造形表現Ⅲ		
必修選択	選択	（学則表記）	造形表現Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材			出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	①造形表現を通じて、保育者として子どもたちの感性を培うことができるようになる。 ②保育者として必要な造形に関する知識教養を身につけ、子どもの造形活動を行えるようになる。
到達目標	①幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえ、指導計画を立てることができるようになる。 ②造形技法、道具・素材を使って、保育教材を作成し保育に活かすことができるようになる。 ③様々な造形表現の基礎知識・技能をいかし、子どもの表現活動に展開させることができるようになる。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	なし
関連科目	造形表現Ⅰ・造形表現Ⅱ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	船越　理穂
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業「造形表現」の概要及び年間計画提示
2	幼児造形教育の教材①	教材や技法の基礎理解①
3	幼児造形教育の教材②	教材や技法の基礎理解②
4	幼児造形教育の教材③	教材づくり
5	幼児造形教育への実践①	保育教材研究（イメージを豊かにする）
6	幼児造形教育への実践②	イメージを豊かにする保育教材の作成
7	幼児造形教育への実践③	イメージを豊かにする保育教材の作成
8	幼児造形教育への実践④	イメージを豊かにする保育教材の作成

9	幼児造形教育への実践⑤	イメージを豊かにする保育教材の作成
10	幼児造形教育への実践⑥	イメージを豊かにする保育教材の作成
11	幼児造形教育の方法と実践①	保育教材を活用した保育の指導案の作成
12	幼児造形教育の方法と実践②	保育教材を使用した模擬保育
13	幼児造形教育の方法と実践③	保育教材を使用した模擬保育
14	幼児造形教育の方法と実践④	子どもの発達と造形について（造形表現Ⅰ・Ⅱの復習と展開）
15	幼児造形教育の方法と実践⑤	子どもの発達と造形についての学びを保育に活かす（造形表現Ⅰ・Ⅱの展開）
16	幼児造形教育への実践⑥	子どもの発達と造形についての学びを保育に活かす（造形表現Ⅰ・Ⅱの展開）
17	幼児造形教育への実践⑦	季節や行事を感じる造形表現の制作
18	幼児造形教育への実践⑧	季節や行事を感じる造形表現の制作
19	幼児造形教育への実践⑨	季節や行事を感じる造形表現の制作
20	幼児造形教育への実践⑩	季節や行事を感じる造形表現の制作
21	幼児造形教育への実践⑪	季節や行事を感じる造形表現の制作の発表
22	幼児造形教育への実践⑫	色々な材料の造形（素材を活かした表現）
23	幼児造形教育への実践⑬	色々な材料の造形（素材を活かした表現）
24	幼児造形教育への実践⑭	色々な材料の造形（素材を活かした表現）
25	幼児造形教育への実践⑮	色々な材料の造形（素材を活かした表現）
26	幼児造形教育への実践⑯	色々な材料の造形（素材を活かした表現）
27	幼児造形教育への実践⑰	色々な材料の造形の指導案作成
28	幼児造形教育の方法と実践⑤	色々な材料の造形の模擬保育
29	幼児造形教育の方法と実践⑥	色々な材料の造形の模擬保育
30	まとめ・振り返り	1年間のまとめと振り返り

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	音楽表現Ⅴ		
必修選択	選択	（学則表記）	音楽表現Ⅴ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	こどものうた200 続こどものうた200		出版社	チャイルド本社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	弾き歌いを通し、より実践的な技術と表現力を身につける。
到達目標	・原曲に基づいたアレンジや弾き歌いができる。 ・楽曲の背景や楽譜上の楽語等を理解し表現できる。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	なし
関連科目	音楽表現Ⅰ・音楽表現Ⅱ・音楽表現Ⅲ・音楽表現Ⅳ・音楽表現Ⅵ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	山路　昌平
実務経験	○
実務内容	ピアノレッスン指導13年

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション あそびうた（1）	授業の流れ、到達目標、評価について あそびうたの弾き歌い練習
2	あそびうた（2）	あそびうたの弾き歌い練習
3	あそびうた（3）	あそびうたの弾き歌い練習
4	あそびうた（4）	あそびうたの弾き歌い練習
5	あそびうた（5）	あそびうたの弾き歌い練習
6	成果発表①	あそびうたの弾き歌い発表
7	季節のうた：夏（1）	夏の季節の弾き歌い練習
8	季節のうた：夏（2）	夏の季節の弾き歌い練習

9	季節のうた：夏（3）	夏の季節の弾き歌い練習 チャレンジ曲の弾き歌い練習
10	季節のうた：夏（4）	夏の季節の弾き歌い練習 チャレンジ曲の弾き歌い練習
11	季節のうた：秋（1）	秋の季節の弾き歌い練習
12	季節のうた：秋（2）	秋の季節の弾き歌い練習
13	季節のうた：秋（3）	秋の季節の弾き歌い練習 チャレンジ曲の弾き歌い練習
14	季節のうた：秋（4）	秋の季節の弾き歌い練習 チャレンジ曲の弾き歌い練習
15	成果発表②	季節のうた「夏・秋」から弾き歌い発表
16	季節のうた：冬（1）	冬の季節の弾き歌い練習
17	季節のうた：冬（2）	冬の季節の弾き歌い練習
18	季節のうた：冬（3）	冬の季節の弾き歌い練習 チャレンジ曲の弾き歌い練習
19	季節のうた：冬（4）	冬の季節の弾き歌い練習 チャレンジ曲の弾き歌い練習
20	季節のうた：春（1）	春の季節の弾き歌い練習
21	季節のうた：春（2）	春の季節の弾き歌い練習
22	季節のうた：春（3）	春の季節の弾き歌い練習 チャレンジ曲の弾き歌い練習
23	季節のうた：春（4）	春の季節の弾き歌い練習 チャレンジ曲の弾き歌い練習
24	成果発表③	季節のうた「冬・春」から弾き歌い発表
25	その他のうた（1）	未習得のこどものうたの弾き歌い練習
26	その他のうた（2）	未習得のこどものうたの弾き歌い練習
27	その他のうた（3）	未習得のこどものうたの弾き歌い練習
28	その他のうた（4）	未習得のこどものうたの弾き歌い練習
29	その他のうた（5）	未習得のこどものうたの弾き歌い練習
30	成果発表④	これまで学習した曲から弾き歌い発表

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	音楽表現Ⅵ		
必修選択	選択	（学則表記）	音楽表現Ⅵ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	CD付きこころとからだを育む１～５歳のたのしいリトミック 保育で使える合奏楽譜ベストセレクション		出版社	ナツメ社 ひかりのくに	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	リトミックの考えを学び、子どもの音楽表現に役立てる。合奏の指導技術を身に付ける。
到達目標	リトミックの意義を理解し、指導ができる 楽器の指導法を理解し、指導ができる。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	なし
関連科目	音楽表現Ⅰ・音楽表現Ⅱ・音楽表現Ⅲ・音楽表現Ⅳ・音楽表現Ⅴ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	門井　杏奈
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	リトミックの要素を考え方
2	1歳のリトミック	1歳のリトミックのテーマ
3	2歳のリトミック	2歳のリトミックのテーマ
4	2歳のリトミック	2歳のリトミックのテーマ
5	3歳のリトミック	3歳のリトミックのテーマ
6	3歳のリトミック	3歳のリトミックのテーマ
7	3歳のリトミック	3歳のリトミックのテーマ
8	4歳のリトミック	4歳のリトミックのテーマ

9	4歳のリトミック	4歳のリトミックのテーマ
10	4歳のリトミック	4歳のリトミックのテーマ
11	5歳のリトミック	5歳のリトミックのテーマ
12	5歳のリトミック	5歳のリトミックのテーマ
13	5歳のリトミック	5歳のリトミックのテーマ
14	リトミックの実践	指導計画立案と発表
15	リトミック活動のまとめ	リトミックで学んだことの確認と振り返り
16	幼児の器楽合奏 2歳児の器楽合奏	幼児の器楽合奏における留意点と指導法 2歳児の発達と音楽
17	2歳児の器楽合奏	2歳児の器楽合奏の実践と指導
18	3歳児の器楽合奏	3歳児の発達と音楽
19	3歳児の器楽合奏	3歳児の器楽合奏の実践と指導
20	2・3歳児のまとめ	2・3歳児の指導計画立案
21	2・3歳児のまとめ	2・3歳児の模擬指導の実践
22	4歳児の器楽合奏	4歳児の発達と音楽
23	4歳児の器楽合奏	4歳児の器楽合奏の実践と指導
24	4歳児の器楽合奏	4歳児の器楽合奏の実践と指導
25	5歳児の器楽合奏	5歳児の発達と音楽
26	5歳児の器楽合奏	5歳児の器楽合奏の実践と指導
27	5歳児の器楽合奏	5歳児の器楽合奏の実践と指導
28	5歳児の器楽合奏	5歳児の器楽合奏の実践と指導
29	幼児の器楽合奏のまとめ	演奏発表と模擬指導計画立案
30	幼児の器楽合奏のまとめ	演奏発表と模擬指導実践のまとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	プレゼンテーション		
必修選択	選択	(学則表記)	プレゼンテーション		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材			出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	保育士・幼稚園教諭として相応しいプレゼンテーションスキルを理解する。
到達目標	保育士・幼稚園教諭として相応しい言葉遣いで保護者向けの説明を行うことができる。 実習の学びについてのプレゼンテーションを行うことができる。 自身の所属するコースの学びについてのプレゼンテーションを行うことができる。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	なし
関連科目	なし
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。

担当教員	羽山　洋平	実務経験	○
実務内容	保育士5年勤務		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標、成績評価の基準について説明。 プレゼンテーションの必要性を考える。
2	PPTにおけるプレゼンテーション①	PPTにおけるプレゼンテーション手法を理解する。PPTに触れる①
3	PPTにおけるプレゼンテーション②	PPTにおけるプレゼンテーション手法を理解する。PPTに触れる②
4	自己紹介内容の作成①	自己紹介の内容を構成し、資料を作成する①
5	自己紹介内容の作成②	自己紹介の内容を構成し、資料を作成する②
6	自己紹介内容の発表①	クラス内での発表①
7	自己紹介内容の発表②	クラス内での発表②
8	現場で使える教材づくり①	生活習慣に関する教材の作成①

9	現場で使える教材づくり②	生活習慣に関する教材の作成②
10	現場で使える教材の発表①	クラス内での発表①
11	現場で使える教材の発表②	クラス内での発表②
12	保育の現代的な課題の調べ学習①	現代の子どもたちを取り巻く環境や保育業界の課題について調べる①
13	保育の現代的な課題の調べ学習②	現代の子どもたちを取り巻く環境や保育業界の課題について調べる②
14	保育の現代的な課題の調べ学習③	現代の子どもたちを取り巻く環境や保育業界の課題について調べる③
15	総まとめ①	前期の振り返りとまとめを行う。
16	保育の現代的な課題の発表①	クラス内での発表①
17	保育の現代的な課題の発表②	クラス内での発表②
18	コースの学びのプレゼンテーション作成①	専門コースでの学びをどう活かすかを踏まえたプレゼンテーションを作成する①
19	コースの学びのプレゼンテーション作成②	専門コースでの学びをどう活かすかを踏まえたプレゼンテーションを作成する②
20	コースの学びのプレゼンテーション作成③	専門コースでの学びをどう活かすかを踏まえたプレゼンテーションを作成する③
21	コースの学びのプレゼンテーション作成④	専門コースでの学びをどう活かすかを踏まえたプレゼンテーションを作成する④
22	コースの学び発表会①	コースの学び発表会①
23	コースの学び発表会②	コースの学び発表会②
24	コースの学び発表会④	コースの学び発表会③
25	実習園・就職園の紹介作成①	実習園や就職園の特徴、実習の流れ、面接の内容などをまとめた資料を作成する①
26	実習園・就職園の紹介作成②	実習園や就職園の特徴、実習の流れ、面接の内容などをまとめた資料を作成する②
27	実習園・就職園の紹介作成③	実習園や就職園の特徴、実習の流れ、面接の内容などをまとめた資料を作成する③
28	実習園・就職園の紹介発表①	クラス内での発表①
29	実習園・就職園の紹介発表①	クラス内での発表②
30	総まとめ②	後期と年間の振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	実習指導Ⅲ		
必修選択	選択	（学則表記）	実習指導Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	1	30
使用教材			出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	保育実習の意義を理解し、実習に必要な知識、技能、心構えを身に付ける。保育者としての専門性をより高める。
到達目標	①保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 ②実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 ③保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 ④保育士の専門性と職業倫理について理解する。 ⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 保育実習Ⅱの単位を取得している者。
関連資格	なし
関連科目	実習指導Ⅰ・実習指導Ⅱ・保育実習Ⅰ(保育所)・保育実習Ⅱ・保育実習Ⅲ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	齋院　美由紀
実務経験	○
実務内容	幼稚園教諭10年・保育士（主任経験あり）4年、子育て支援センター3年

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	授業ガイダンス 保育実習の概要	保育実習について・ステップアップ表の確認
2	保育実習日誌の書き方	保育実習日誌の書き方　復習
3	保育実習日誌の書き方	０～２歳児の発達と配慮点について
4	保育実習日誌の書き方	エピソード記録の書き方確認・日誌全項目の内容確認
5	部分実習指導案作成	自己課題に沿った指導案を作成する
6	部分実習指導案作成	自己課題に沿った指導案を作成する

7	部分実習指導案作成	自己課題に沿った指導案を作成する
8	責任実習指導案作成	責任実習での具体的配慮や書き方を確認する
9	責任実習指導案作成	責任実習での具体的配慮や書き方を確認する
10	責任実習指導案作成	責任実習での具体的配慮や書き方を確認する
11	責任実習指導案作成	責任実習での具体的配慮や書き方を確認する
12	実習直前指導	自己課題の準備と確認 プライバシーの保護と守秘義務について
13	保育実習振り返り	経験を報告し合い、今後の自己課題を明確化する
14	保育実習振り返り	経験を報告し合い、今後の自己課題を明確化する
15	施設の保育について学ぶ	施設保育を学ぶ
16	施設の保育について学ぶ	保育所と他施設の連携について学ぶ
17	部分実習指導案作成	自己課題に沿った指導案を作成する
18	部分実習指導案作成	自己課題に沿った指導案を作成する
19	責任実習指導案作成	自己課題に沿った指導案を作成する
20	責任実習指導案作成	自己課題に沿った指導案を作成する
21	責任実習指導案作成	自己課題に沿った指導案を作成する
22	実習直前指導	自己課題の準備と確認 プライバシーの保護と守秘義務について
23	保育実習振り返り	経験を報告し合い、今後の自己課題を明確化する
24	保育実習振り返り	経験を報告し合い、今後の自己課題を明確化する
25	見通しを持った保育の必要性①	月案から週案を立案する
26	見通しを持った保育の必要性②	月案から週案を立案する
27	就職後を見据えた取り組み①	今までの取り組みを振り返り、現場に必要な実践力を培う
28	就職後を見据えた取り組み②	今までの取り組みを振り返り、現場に必要な実践力を培う
29	就職後を見据えた取り組み③	今までの取り組みを振り返り、現場に必要な実践力を培う
30	就職後を見据えた取り組み④	今までの取り組みを振り返り、現場に必要な実践力を培う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	実習指導Ⅳ		
必修選択	選択	（学則表記）	実習指導Ⅳ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	1	30
使用教材			出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	保育実習の理解を高め、保育士としての基本的な態度、知識、技術の基礎を形成するとともに、保育実習に向けた課題の明確化を図る
到達目標	①保育実習の意義・目的を理解する。 ②実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 ③実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 ④実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 ⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。☒
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の２/３以上ある者。 成績評価が３以上の者。 施設実習の単位が取得できている者。
関連資格	保育士
関連科目	施設実習
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	鈴木　純子
実務経験	○
実務内容	幼稚園教諭 7年、放課後児童クラブ支援員4年

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	実習の概要	保育実習に向けての準備する内容を理解する
2	保育実習の目的理解	保育実習（施設）の「目的」「意義」「内容」を理解する
3	倫理綱領①	保育士倫理綱領を理解する
4	倫理綱領②	保育士倫理綱領を理解する
5	実習先の種類と概要①	実習先の施設種類における概要を理解する
6	実習先の種類と概要②	実習先の施設種類における概要を理解する
7	実習先の種類と概要③	実習先の施設種類における概要を理解する

8	実習施設調査	自分の実習先について調べ、施設種別と実習先の特徴について整理する
9	保育実習内容の明確化	実習施設調査を踏まえて実習先の施設種別と保育実習における内容の位置付けを図る
10	保育実習課題の明確化	実習施設調査を踏まえて保育実習を通しての課題及び各実習日の実習課題について検討する
11	実習生としての心構え①	心構え、実習時の服装、基本的な礼儀、マナー、電話のかけ方について考える
12	実習生としての心構え②	通所施設における礼儀やマナー、宿泊に伴う礼儀やマナーについて考える
13	プライバシーの保護と守秘義務	実習先における入所、通所児者のプライバシー保護及び守秘義務について理解する
14	トラブルシューティング	保育実習におけるトラブル事例について考察し、対応策について検討する
15	子どもの保育と保護者支援	子どもの保育における保護者支援を検討する
16	実習における計画	実習期間における実習計画書を作成する
17	保育実習における観察	保育実習における観察実習について理解する
18	保育実習における記録の意義・方法	実習日誌の意義と方法を理解する
19	保育実習における記録①	実習日誌の書き方を理解し、実際に作成する
20	保育実習における記録②	実習日誌の記載方法について深める
21	部分実習指導案	部分実習指導案の立て方を学ぶ 自分の実習先を想定し、指導案を書く
22	部分実習指導案	部分実習指導案の立て方を学ぶ 自分の実習先を想定し、指導案を書く
23	部分実習実践	指導案を基にグループで部分実習の実践をする
24	実習の振り返り	実習における振り返りを行い自己覚知を図る
25	実習報告書の作成①	実習計画書に基づき、実習報告書を作成する
26	実習報告書の作成②	実習計画書に基づき、実習報告書を作成する
27	発表①	保育実習を通しての学びを他者と共有する
28	発表②	保育実習を通しての学びを他者と共有する
29	実習の総括と自己評価	保育実習を通しての総括と自己評価を行う
30	課題の明確化	実習を通して学んだことを振り返る

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実習	科目名	施設実習		
必修選択	選択	（学則表記）	施設実習		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	1	45
使用教材			出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	児童福祉施設や障害者支援施設にて実習を行い、保育士としての必要な基礎的な子どもや施設利用者に対する理解を深める。
到達目標	①保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 ②観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 ③既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。 ④保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。
評価基準	実習評価40　日誌・指導案60　を基本的配分とした上で、提出物・巡回指導を総合的に評価する。
認定条件	出席が45単位時間以上ある者。 成績評価が３以上の者。 実習指導Ⅳの単位を取得している者。
関連資格	
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	鈴木　純子　　実務経験　○
実務内容	幼稚園教諭 7年、放課後児童クラブ支援員4年

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実習	科目名	保育実習Ⅰ(保育所)		
必修選択	選択	(学則表記)	保育実習Ⅰ(保育所)		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	90
使用教材			出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能と保育士の職務について学ぶために、保育所の生活に参加する。
到達目標	①保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 ②観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 ③既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。 ④保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。
評価基準	実習評価40　日誌・指導案60　を基本的配分とした上で、提出物・巡回指導を総合的に評価する。
認定条件	実習規定に定める必要時間数以上の出席をしている者。 成績評価が３以上の者。 保育実習指導Ⅰ(保育所)の単位を取得している者。
関連資格	なし
関連科目	保育実習指導Ⅰ(保育所)・保育実習Ⅱ・保育実習Ⅲ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	鈴木　純子
実務経験	○
実務内容	幼稚園教諭 7年、放課後児童クラブ支援員4年

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実習	科目名	保育実習Ⅰ(施設)		
必修選択	選択	(学則表記)	保育実習Ⅰ(施設)		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	90
使用教材			出版社		

科目の基礎情報②			
授業のねらい	児童福祉施設や障害者支援施設にて実習を行い、保育士としての必要な基礎的な子どもや施設利用者に対する理解を深める。		
到達目標	①保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 ②観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 ③既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。 ④保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。		
評価基準	実習評価40　日誌・指導案60　を基本的配分とした上で、提出物・巡回指導を総合的に評価する。		
認定条件	出席が90単位時間以上ある者。 成績評価が３以上の者。		
関連資格	なし		
関連科目	なし		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	鈴木　純子	実務経験	○
実務内容	幼稚園教諭 7年、放課後児童クラブ支援員4年		

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実習	科目名	保育実習Ⅱ		
必修選択	選択	（学則表記）	保育実習Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	90
使用教材			出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	保育所での保育を実践し、保育士としての必要な資質・能力・技術を習得する。また、家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。
到達目標	①保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。 ②子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。 ③既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について相互的に理解する。 ④保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。 ⑥実習における自己の課題を明確化する。
評価基準	実習評価40　日誌・指導案60　を基本的配分とした上で、提出物・巡回指導を総合的に評価する。
認定条件	出席が90単位時間以上ある者。 成績評価が３以上の者。 実習指導Ⅲの単位を取得している者。
関連資格	なし
関連科目	実習指導Ⅲ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	鈴木　純子　　実務経験　○
実務内容	幼稚園教諭 7年、放課後児童クラブ支援員4年

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実習	科目名	保育実習Ⅲ		
必修選択	選択	（学則表記）	保育実習Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	90
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	児童福祉施設での保育を実践し、保育士としての必要な資質・能力・技術を習得する。また、家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解力、判断力を養うとともに、子育て支援・保
到達目標	①既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解する。 ②家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。 ③保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する。 ④実習における自己の課題を理解する。
評価基準	実習評価40　日誌・指導案60　を基本的配分とした上で、提出物・巡回指導を総合的に評価する。
認定条件	出席が90単位時間以上ある者。 成績評価が３以上の者。
関連資格	
関連科目	保育実習指導Ⅲ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	鈴木　純子　　実務経験　○
実務内容	幼稚園教諭 7年、放課後児童クラブ支援員4年

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	心理実践Ⅰ／子育て心理		
必修選択	選択必修	（学則表記）	心理実践Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	子育ての発達心理学		出版社	同文書院	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	発達段階ごとの子どもの成長の主な特徴について発達心理学の知見を踏まえ理解するとともに、各発達段階において生じる子ども及び保護者の課題に対する対応について事例を通して学ぶ。
到達目標	1.心理学的観点から、発達についての知識を習得する。 2.病児や躓き等、様々な子どもの発達特性や、その保護者の心理状態について知識を習得する。 3.家庭や福祉医療施設等における子育ての背景を理解し、保護者への適切な関わりについての知識・技術を習得する。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	なし
関連科目	心理実践Ⅱ　心理実践Ⅲ　心理実践Ⅳ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	浅井　玲子
実務経験	○
実務内容	社会福祉法人理事として保育園(設置/運営経験) 都内病院で精神科リハビリテーション講師10年勤務

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ガイダインス	授業の進め方について　　子どもはどうやって育つのか
2	乳幼児と養育者	知性の身体化と養育者の役割
3	保育と発達　①	保育の５領域と発達理論の関係　①
4	保育と発達　②	保育の５領域と発達理論の関係　②
5	様々な発達理論　①	乳幼児期と愛着　①（愛着の形成と展開）
6	様々な発達理論　②	乳幼児期と愛着　②（愛着形成を阻害するものとは）
7	様々な発達理論　③	乳幼児期と保幼小接続
8	様々な発達理論　④	児童期以降の発達理論　①

9	様々な発達理論　⑤	児童期以降の発達理論　②
10	様々な発達理論　⑥	児童期以降の発達理論　③
11	様々な発達理論　⑦	児童期以降の発達理論　④
12	様々な発達理論　⑧	児童期以降の発達理論　⑤
13	情緒の発達　①	情緒・感情とは
14	情緒の発達　②	他者感情の理解と向社会的行動の発達
15	総まとめ　①	振り返り　解説
16	認知の発達　①	認知の発達　①
17	認知の発達　②	認知の発達　②
18	認知の発達　③	認知の発達　③
19	子どもの遊びの発達　①	発達と遊びの関係性　①
20	子どもの遊びの発達　②	発達と遊びの関係性　②
21	子どもの遊びの発達　③	発達と遊びの関係性　③
22	子どもの遊びの発達　④	発達と遊びの関係性　④
23	発達の躓きと養育者・施設の役割　①	発達を妨げる疾病等の理解　①
24	発達の躓きと養育者・施設の役割　②	発達を妨げる疾病等の理解　①
25	発達の躓きと養育者・施設の役割　③	各障害の特徴と対処例　①
26	発達の躓きと養育者・施設の役割　④	各障害の特徴と対処例　②
27	発達の躓きと養育者・施設の役割　⑤	福祉施設が目指す子どもの発達
28	子育て支援について　①	子育て支援の必要と手法
29	子育て支援について　②	子どもの観察と研究法
30	総まとめ　②	振り返り　解説

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	心理実践Ⅱ／子育て家庭とストレスケア		
必修選択	選択必修	（学則表記）	心理実践Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	ストレス・マネジメント入門 保育者のためのこども虐待対応の基本		出版社	金剛出版 ひとなる書房	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	虐待によって受ける心身への深刻な影響や死亡する子どもが増加する現代社会において、日常的に子どもと関わる専門職に求められる知識や具体的な対応ついて理解していく。
到達目標	1.保育・教育実践にかかわる心理学的知識を習得する。 2.発達障害やその他の乳幼児のための教育評価・支援方法を現代社会の問題に沿って習得する。 3.虐待が発生する一要因としてのストレスについて学び、対処技術であるストレスマネジメントを習得する。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	なし
関連科目	心理実践Ⅰ　心理実践Ⅲ　心理実践Ⅳ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	浅井　玲子
実務経験	○
実務内容	社会福祉法人理事として保育園(設置/運営経験) 都内病院で精神科リハビリテーション講師10年勤務

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について保護者・子どもに起こるストレスについて学ぶ意義
2	保護者が抱えるストレス　①	ストレスとは
3	保護者が抱えるストレス　②	子育てにおける不安　　子育てで怒る保護者の気持ち
4	児童虐待とは　①	虐待とは　　何が虐待を招くのか　　児童虐待に関わる法令
5	児童虐待とは　②	様々な虐待事件について
6	児童虐待とは　③	コモンセンスペアレンティングの導入
7	子どもへの様々な影響　①	不適切な環境による子どもへの影響
8	子どもへの様々な影響　②	不適切な環境へのストレスコーピング

9	子どもへの様々な影響　③	不適切な環境が構築される要因と対策
10	環境刺激に対するヒトの行動様式	保護者の養育態度とタイプ行動A
11	ストレスに強い人格　①	保護者が子どもに望むこと
12	ストレスに強い人格　②	保護者が自己効力感を得る支援
13	園における対応と流れ　①	保護者・子どもへの変化の気づき
14	園における対応と流れ　②	児童虐待への対応　　保護者の悩みを受容する意味
15	総まとめ　①	振り返り・解説
16	社会的興味と外向性　①	社会的興味　　内向性・外向性
17	社会的興味と外向性　②	保護者が他者と関わる意味　①
18	社会的興味と外向性　③	保護者が他者と関わる意味　②
19	楽観主義と完璧主義　①	楽観主義と完璧主義　①
20	楽観主義と完璧主義　②	楽観主義と完璧主義　②
21	イメージリラックス・トレーニング	子育てとリラクゼーション
22	問題解決法とタイムマネジメント　①	日常生活における時間的余裕へのアプローチ
23	問題解決法とタイムマネジメント　②	子育て家庭における時間的経過と時間的余裕へのアプローチ
24	非合理な考え方　①	非合理な考え方の理論と要因　①
25	非合理な考え方　②	非合理な考え方の理論と要因　②
26	様々なケースへのアプローチ　①	多様な虐待ケースにおける対応　①
27	様々なケースへのアプローチ　②	多様な虐待ケースにおける対応　②
28	様々なケースへのアプローチ　③	多様な虐待ケースにおける対応　③
29	生活とストレスの関係	ストレスが及ぼす生活への影響を振り返る
30	総まとめ　②	振り返り・解説

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	心理実践Ⅲ／カウンセリング		
必修選択	選択必修	（学則表記）	心理実践Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	やさしく学ぶカウンセリング26のレッスン 子育て支援カウンセリング　幼稚園・保育所で行う保護者の心のサポート		出版社	図書文化社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	カウンセリングの諸理論を通してカウンセリング場面の基本的姿勢や技法を体験学習を通じて学ぶ。 また、自身や他者のこころについて理解を深め、人との関わりについて学ぶ。
到達目標	・カウンセリングの理論と実施について習得する。 ・教育、臨床現場で起こりえる問題や状況に応じた援助に役立つ能力を習得する。 ・傾聴、他者理解を体験しながら身につける。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	なし
関連科目	心理実践Ⅰ　心理実践Ⅱ　心理実践Ⅳ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	浅井　玲子
実務経験	○
実務内容	社会福祉法人理事として保育園(設置/運営経験) 都内病院で精神科リハビリテーション講師10年勤務

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ガイダンス よりよい子育て支援のために	授業の進め方について　　保育者の心を支えるために必要なこと
2	自分を知る・他者を知る	自己開示とは　　物事の感じ方を理解する
3	子育て支援に生かすカウンセリングの理論と技法　①	ロジャーズの来談者中心療法
4	子育て支援に生かすカウンセリングの理論と技法　②	カウンセリングに必要なコミュニケーション　①
5	子育て支援に生かすカウンセリングの理論と技法　③	カウンセリングに必要なコミュニケーション　②
6	子育て支援に生かすカウンセリングの理論と技法　④	ロールプレイ体験　①
7	子育て支援に生かすカウンセリングの理論と技法　⑤	共感と純粋性

8	子育て支援に生かすカウンセリングの理論と技法　⑥	沈黙が訪れる場面とその時の対応　　質問の技法
9	子育て支援に生かすカウンセリングの理論と技法　⑦	ロールプレイ体験　②
10	子育て支援に生かすカウンセリングの理論と技法　⑧	繰り返しの技法　　会話を要約をする意味
11	子育て支援に生かすカウンセリングの理論と技法　⑨	クライアントの支持をする意味
12	子育て支援に生かすカウンセリングの理論と技法　⑩	ロールプレイ体験　③
13	子育て支援に生かす様々な心理学理論　①	フロイトの精神分析論
14	子育て支援に生かす様々な心理学理論　②	アドラーの個人心理学
15	総まとめ　①	振り返り・解説
16	子育て支援に生かす様々な心理学理論　③	ユング心理学
17	子育て支援に生かす様々な心理学理論　④	交流分析
18	子育て支援に生かす様々な心理学理論　⑤	行動心理学
19	子育て支援に生かす様々な心理学理論　⑥	認知心理学
20	子育て支援に生かす様々な心理学理論　⑦	ブリーフセラピー
21	養育困難を抱える保護者の理解とサポート	養育のリスク要因　　虐待が疑われる家庭
22	障害のある子どもをもつ保護者の理解とサポート	保護者との信頼関係　　多くみられる障害について
23	精神疾患の疑いのある保護者の理解とサポート	サポートがうまくいかない時の一要因　　多くみられる疾患について
24	子育て支援に生かす様々なアセスメント技法　①	アセスメント技法　①
25	子育て支援に生かす様々なアセスメント技法　②	アセスメント技法　②
26	その他の心理療法　①	様々な心理療法　①
27	その他の心理療法　②	様々な心理療法　②
28	親としての成長を支える	親になるということとへの理解
29	カウンセリング技法等の振り返り	【事例と通して】ロールプレイ
30	総まとめ　②	振り返り・解説

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	心理実践Ⅳ（モチベーションマネジメント）		
必修選択	選択必修	（学則表記）	心理実践Ⅳ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	・モチベーション・マネジメント授業モチベーション・インストラクター資格【前編】【後編】 ・人生が大きく変わる アドラー心理学入門		出版社	一般社団法人モチベーション・マネジメント協会・かんき出版	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	目標達成への行動を喚起する、また達成するまで行動を持続するための理論理解は、保育者として必要な力である。本科目では身近な生活場面を元にモチベーション理論を実践的に学び、理解していく。
到達目標	①活動場面を中心に、自身のモチベーションを高め、維持する方法を習得する。 ②保育者として保護者・子ども、または同僚のモチベーションを高める実戦的な方法を習得する。 ③「公認モチベーション・インストラクター資格」を取得することができる
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	モチベーション・インストラクター資格
関連科目	心理実践Ⅰ　心理実践Ⅱ　心理実践Ⅲ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	浅井　玲子
実務経験	○
実務内容	社会福祉法人理事として保育園(設置/運営経験) 都内病院で精神科リハビリテーション講師10年勤務

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	アドラー心理学とフロイト心理学	アドラー心理学とフロイト心理学の違い
2	アドラー心理学と５つの理論　①	アドラー心理学とは　①
3	アドラー心理学と５つの理論　②	アドラー心理学とは　②
4	自分との付き合い方　①	感情との付き合い方
5	自分との付き合い方　②	「怒り」との付き合い方
6	自分との付き合い方　③	ライフタクス
7	人間関係　①	人間関係とは

8	人間関係　②	人間関係を作る理論と技法
9	仕事・リーダーとしての心理学　①	集団心理　　リーダーシップ論
10	仕事・リーダーとしての心理学　②	アサーショントレーニング
11	仕事・リーダーとしての心理学　③	コーチング
12	親子・家族関係の心理学　①	家族理論
13	親子・家族関係の心理学　②	望ましい親子関係とは
14	人生を豊かにする心理学	失敗から立ち直るということ
15	全体まとめ　②	振り返り　確認

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	スポーツ実践Ⅰ(幼児体育)		
必修選択	選択必修	(学則表記)	スポーツ実践Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	子どものからだを操作する力をはぐくもう ーこども運動指導者2級ガイドブックー		出版社	萌文書林	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	幼児期の子どもに合わせた指導プログラムの立案・指導方法、実技を身につける。		
到達目標	幼児期に適切な運動能力の基盤づくりができる方法を述べることができる。 乳幼児の発達特性に合わせた運動プログラムの立案をすることができる。 子ども達の見本となる運動実技・指導を実施することはできる。		
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。		
関連資格	こども運動指導者検定2級・1級		
関連科目	スポーツ実践Ⅱ・スポーツ実践Ⅲ・スポーツ実践Ⅳ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	門倉　智奈美	実務経験	○
実務内容	幼児体育教室で2年勤務☒		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について、現代の幼児期の運動のあり方と課題を知る
2	実技編　マット運動	マット運動の基本の動き「前転・開脚前転・後転・開脚後転」を実践する
3	指導編　マット運動	前転・後転の基本的な指導法と補助法を身に付け、指導する
4	実技編　跳び箱運動	跳び箱の基本「開脚跳び」の動きを実践する
5	指導編　跳び箱運動	跳び箱運動の段階指導を学びながら補助法を身に付け、指導する
6	乳幼児期の運動の必要性	幼児期における運動のあり方と課題を知る
7	こどもの発育・発達と基本運動	発育発達を理解して、個々の発達に合わせ適切にアプローチする
8	移動運動から体を操作する能力を育てる	足の裏・手のひらから体を操作する能力を育てることを知り、 「寝返り＝転がる」から始まる移動運動の重要性を理解する

9	考案編　動きのテーマを決めて系統的に発展	器具の特性を理解して「転がる」・「走る」をテーマに空間、環境設定を行う
10	実践編　動きのテーマを決めて系統的に発展	器具の特性を理解して「転がる」・「走る」をテーマに様々な空間・環境設定して実践する
11	考案編　両足跳びの動きの発展	基本運動の「両足跳び」を様々な空間で経験できる環境づくりを理解する（系統的）
12	実践編　両足跳びの動きの発展	体を動かしながらことばの機能を育て、基本運動の「両足跳び」を様々な空間で 経験できる環境づくりをしたものを実践する
13	実技完成編　跳び箱運動・マット運動	子ども達の見本となるよう綺麗な動きを習得する（動きの自己分析）
14	実技確認　跳び箱運動・マット運動	前回自己分析をした箇所を意識して実技確認を実施する
15	前期まとめ	後期に指定された検定認定試験に向けて前期授業の振り返り
16	検定対策	認定試験（学科、実技）を前期授業内容から確認する
17	縄跳び運動	縄跳び運動の跳び方の種類を知り、様々な跳び方を習得する（各自縄跳びを持参）
18	縄跳び～前まわし跳びの運動遊び	指導形態を理解して、ルールのある前回し跳び運動遊びを考案する
19	考案編　テーマを決めて系統的指導	スポーツの基本の動きを理解して様々な環境・空間づくりをして運動能力を高める方法を学ぶ
20	実践編　テーマを決めて系統的指導	考案した系統的指導を共有する
21	実技編　鉄棒	鉄棒運動の基本「足抜きまわり・尻上がり」「前回りおり」「逆上がり」の動きを実践する
22	指導編　鉄棒指導	鉄棒の段階指導と補助法を理解、実践する
23	New Sports（考案）	「誰でも、いつからでも、楽しく」をテーマにNew Sportsを考案する
24	New Sports（共有）	考案したNew Sportsを共有する
25	実技編　マット運動・跳び箱運動	自己のレベルを向上するために更に新しい技について学び実践する
26	基本運動の系統的まとめ	様々な環境で系統的に考案。運動能力を高めることについて、まとめを行う
27	実技確認	実技確認を実施する
28	New Sports　まとめ	考案したNew Sports を実践。様々な角度から子ども達の運動について学ぶ
29	マット運動・跳び箱運動/実技まとめ	子どもたちの見本となるように自己の実技レベルアップを目指す
30	総まとめ	振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	スポーツ実践Ⅱ(幼児レクリエーション)		
必修選択	選択必修	(学則表記)	スポーツ実践Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材			出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	幼児レクリエーションを通して他者と交流し、レクリエーションの指導技術を身につける。
到達目標	幼児レクリエーションの目的を理解し、実践できる。 対象に合わせたレクリエーション指導ができる。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	なし
関連科目	スポーツ実践Ⅰ・スポーツ実践Ⅲ・スポーツ実践Ⅳ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	鈴木　弘子
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	運動遊びと幼児のレクリエーション	レクリエーションや遊びについて理解する
2	伝承遊び①	昔からある遊びについて理解し、実践する
3	伝承遊び②	昔からある遊びについて理解し、グループで実践する
4	手遊びを理解する	子どもの発達に合わせた手遊びを学び、理解する
5	手遊びを理解し、実践する	子どもの発達に合わせた手遊びをグループごとに発表する
6	ことばの機能を育てるレク①	音や声を使い身体を表現する指導法を実践する
7	ことばの機能を育てるレク②	音や声を使い身体を表現する指導法をグループに分かれて実践する

8	社会性を育てるレク①	子どもたちの発達段階に合わせた運動遊び、レクリエーションを学ぶ
9	社会性を育てるレク②	子どもたちの発達段階に合わせた運動遊び、レクリエーションを学ぶ
10	ごっこ遊び①	子どもたちの発達段階に合わせたごっこ遊びを学ぶ
11	ごっこ遊び②	子どもたちの発達段階に合わせたごっこ遊びを学び、グループごとに発表する
12	乳幼児からできる運動遊び	年齢別の動きを理解し乳幼児から親子で楽しめる運動遊びを実践する
13	発展性のある運動遊び①	伝承遊びや様々な遊びの基本的ルールを発展的に考える
14	発展性のある運動遊び②	グループごとにテーマを与え先生役、子ども役に別れてニュースポーツを行う
15	前期まとめ	前期授業の振り返り
16	後期オリエンテーション	後期の授業内容、ねらい、到達目標の確認
17	身体を使ったレクリエーション① (用具・手具)	年齢別にレクリエーションを理解し、身近な物を使い実際に動きながら理解を深める
18	身体を使ったレクリエーション② (座った姿勢・床、椅子)	年齢別にレクリエーションを理解し、座った姿勢で出来るレクを考え、実際に動きながら理解を深める
19	身体を使ったレクリエーション③ (グループレク)	年齢別にレクリエーションを理解し、大人数で出来るレクを実際に動きながら理解を深める
20	ボールを使ったレクリエーション	発達段階に合わせたボールレクリエーションを実践する
21	新聞紙遊び	新聞紙を使い年齢に合わせたレクリエーション遊びを実践する
22	鬼ごっこ①	年齢別の動きを理解し、室内、屋外で出来る鬼ごっこを学び、実践する
23	鬼ごっこ②	年齢別の動きを理解し、室内、屋外で出来る鬼ごっこを学び、理解した上で先生役、子供役に分かれて行う
24	レクリエーション大会　考案	レクリエーション大会を実践する上でのルールや役割を考案する
25	レクリエーション大会　準備	レクリエーション大会を実践する上での準備を行う
26	レクリエーション大会　実践	レクリエーション大会を実践する
27	後期振り返り①	レクリエーション大会の振り返りを実施
28	室内レクリエーション①	室内で出来るレクを学び、グループに分かれて考案し、実践する
29	屋外レクリエーション②	屋外で出来るレクを学び、グループに分かれて考案し、実践する
30	後期振り返り②	まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	スポーツ実践Ⅲ(保育行事・イベント運営)		
必修選択	選択必修	(学則表記)	スポーツ実践Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材			出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	各園で行われている運動遊びに関わる行事を知り、保育者として行事の知識を得る。
到達目標	各行事の目的を理解した上で、運営できる。 行事やイベントの内容を立案することができる。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	なし
関連科目	スポーツ実践Ⅰ・スポーツ実践Ⅱ・スポーツ実践Ⅳ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	村田　文代
実務経験	○
実務内容	幼児体育指導、認定保育所園長

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について、保育現場で行われている保育行事、保育活動について知る
2	イベント行事	イベントや行事の目的、組み立て、予算、行程表の作成方法、こどもや保護者伝達方法を考える
3	考案編/春の親子遠足	遠足や保育参観の目的、意義を理解し、春の親子遠足を考案する
4	準備編/春の親子遠足	春の親子遠足の企画、発表の準備
5	発表編/春の親子遠足	企画した春の親子遠足について発表
6	体力測定①	幼児が行う体力測定の種類、測定方法を学ぶ
7	体力測定②	体力測定の指導実践を行う

8	考案編/お泊りキャンプ	お泊りキャンプについて学ぶ
9	準備編/お泊りキャンプ	お泊りキャンプについて企画、発表の準備
10	発表編/お泊りキャンプ	企画したお泊りキャンプについて発表
11	怪我や応急処置	怪我の種類や応急処置について学ぶ
12	考案編/スポーツ大会	各園で実施されているスポーツ大会や球技大会について学ぶ
13	準備編/スポーツ大会	スポーツ大会について考案、企画する
14	実践編/スポーツ大会	企画したスポーツ大会を発表する
15	前期まとめ	前期授業の振り返り
16	後期オリエンテーション	後期の授業内容、ねらい、到達目標の確認
17	考案編/運動会	各園で実施されている運動会について学ぶ
18	準備編/運動会	運動会プログラムを考案する
19	準備編/運動会	運動会プログラムを考案する
20	実践編/運動会	運動会を発表する
21	考案編/マラソン大会	マラソン大会について学ぶ
22	準備編/マラソン大会	マラソン大会について企画、発表の準備
23	実践編/マラソン大会	企画したマラソン大会について発表
24	保育行事	保育行事を学ぶ
25	考案編/New Event/新しい行事	「年度最後のスポーツ行事」をテーマにNew Eventを考案する
26	準備編/New Event/新しい行事	考案したNew Eventの発表準備
27	実践編①/New Event/新しい行事	考案したNew Eventを実践する
28	実践編②/New Event/新しい行事	考案したNew Eventを実践する
29	後期の振り返り	後期で学んだ事をレポートにまとめる
30	まとめ	後期で学んだ事をレポートにまとめ発表

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	スポーツ実践Ⅳ(キッズダンス)		
必修選択	選択必修	(学則表記)	スポーツ実践Ⅳ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材			出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	幼児期の子どもに合わせたリズム運動遊び、キッズダンスの指導プログラムの立案・指導方法を身につける。
到達目標	乳幼児の発達特性に合わせたリズム運動遊び、キッズダンスのプログラムを立案することができる。 リズム運動遊び、キッズダンスの指導方法を身につけ、実践できる。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	なし
関連科目	スポーツ実践Ⅰ・スポーツ実践Ⅱ・スポーツ実践Ⅲ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	村田　文代
実務経験	○
実務内容	幼児体育指導、認定保育所園長

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、授業のねらい、到達目標、評価基準について理解する
2	リズム運動遊び	音楽やリズムに合わせて動くリズム運動遊びを実践する
3	実技編　リズムトレーニング	音楽に合わせてジャンプ動作を行う
4	考案編　リズムトレーニング	音楽に合わせてジャンプ動作の指導準備
5	指導編　リズムトレーニング	音楽に合わせてジャンプ動作を指導する
6	制限を使ったリズム運動遊び	座った姿勢でのリズム遊びやボールを使ったリズム運動を学ぶ
7	実技編　ダンス実践	課題曲でキッズダンスを実践する
8	考案編　音楽体操	音楽体操の振付を考案する

9	実技編　音楽体操	考案した音楽体操を実践する
10	指導編　音楽体操	考案した音楽体操の指導実践
11	考案編　リズム運動遊び指導実践	リズム運動遊びの指導実践内容を考案する
12	実技編　リズム運動遊び指導実践	リズム運動遊びの指導実践内容を実践する
13	指導編　リズム運動遊び指導実践	音楽体操からリズム運動遊び、リズムトレーニングまでの指導実践
14	指導編　リズム運動遊び指導実践	音楽体操からリズム運動遊び、リズムトレーニングまでの指導実践
15	前期まとめ	前期授業の振り返り
16	後期オリエンテーション	後期の授業内容、ねらい、到達目標の確認
17	運動会とキッズダンス	主に未満児の演技を考案する
18	運動会とキッズダンス	主に未満児の演技を実践する
19	運動会とキッズダンス	主に以上児の演技を考案する
20	運動会とキッズダンス	主に以上児の演技を発表する
21	考案編　音楽体操	各グループで音楽体操を選曲し振付を考案する
22	実技編　音楽体操	考案した音楽体操の実践と指導準備
23	指導編　音楽体操	考案した音楽体操の指導実践
24	考案編　キッズダンス指導実践	音楽体操から、リズムトレーニング、キッズダンスまでの考案
25	実技編　キッズダンス指導実践	音楽体操から、リズムトレーニング、キッズダンスまでを実践する
26	指導編　キッズダンス指導実践	音楽体操から、リズムトレーニング、キッズダンスまでの指導実践
27	保育発表会とパフォーマンス発表	集団でのパフォーマンス準備
28	保育発表会とパフォーマンス発表	集団でのパフォーマンス準備
29	保育発表会とパフォーマンス発表	集団でのパフォーマンス発表
30	まとめ	後期で学んだ事をレポートにまとめ発表

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	病児実践Ⅰ／こどもの医学Ⅰ		
必修選択	選択必修	（学則表記）	病児実践Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	改訂版　子どもの保健検定2級・3級　公式テキスト		出版社	日本能率マネジメントセンター	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	保育士・幼稚園教諭となるために正しい知識を修得し、適切な対応力を身に付ける。
到達目標	子どもの保健検定3級　取得
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	子どもの保健検定3級
関連科目	病児実践Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	中岡　美由紀
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション・復習	授業のねらい、検定の概要、子どもの保健の復習
2	第1編 第1章　病気のサインの見つけ方	日常の観察と子どもの体温変化について
3	第1編 第1章　病気のサインの見つけ方	子どもの症状を見るポイント①
4	第1編 第1章　病気のサインの見つけ方	子どもの症状を見るポイント②
5	第1編 第2編　からだの観察で気づく疾患	腹部・陰部の観察と疑われる疾患について
6	第1編 第2編　からだの観察で気づく疾患	頸部・頭部の観察を疑われる疾患について
7	第1編　第3章　子どもに見られる感染症と感染症の予防接種	主な感染症と病原体、感染症による登園・登校の禁止について
8	第1編　第3章　子どもに見られる感染症と感染症の予防接種	子どもに多く見られる感染症の特徴、感染症に対する予防接種について

9	第1編　第4章　各症状への対応	発熱時、発疹時の対応について
10	第1編　第4章　各症状への対応	嘔吐時、下痢時、腹痛時の対応について
11	第1編　第４章　各症状への対応	咳嗽時、けいれん時の対応について
12	第1編　第5章　子どもへの救急対応	救急対応の基本と死因の知識、乳幼児の誤飲・窒息について
13	第1編　第5章　子どもへの救急対応	救急の対応が必要となる場合について
14	第1編　第1章～第5章	検定に向けて対策を行う
15	第1編　第1章～第５章	総まとめ
16	第2編　第1章　子どもの保健	子どもの健康と保健の意義、数字で見る子どもの健康について
17	第2編　第1章　子どもの保健	子どもの発育と発達について
18	第2編　第1章　子どもの保健	子どもの体位測定と体格評価指数について
19	第2編　第1章　子どもの保健	子どもの体重・身長、目・耳の変化、骨・歯の変化について
20	第2編　第１章　子どもの保健	子どもの呼吸、循環の変化について
21	第2編　第１章　子どもの保健	子どもの反射について
22	第2編　第１章　子どもの保健	子どもの疾病と保健（呼吸器、循環器、消化器、神経、筋疾患）について
23	第2編　第1章　子どもの保健	子どもの疾病と保健（泌尿器、内分泌、血液、アレルギー、悪性腫瘍）について
24	第2編　第1章　子どもの保健	子どもの精神保健について
25	第2編　第1章　子どもの保健	保育環境の衛生管理について
26	第2編　第1章　子どもの保健	保育環境の安全管理について
27	第2編　第1章　子どもの保健	子どもの健康診査・健康診断について
28	第2編　第2章　子どもの食と栄養	乳児期の食と栄養について
29	第2編　第2章　子どもの食と栄養	離乳期、幼児期の食と栄養について
30	第2編　第1章～第2章	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	病児実践Ⅱ／こどもの医学Ⅱ		
必修選択	選択必修	（学則表記）	病児実践Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	30
使用教材	こうすればうまくいく！ 医療的配慮が必要なこどもの保育		出版社	中央法規出版	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	医療的ケアを受けている子どもや、慢性疾患のある子どもへの配慮や援助方法を身につける。
到達目標	病気や障害について、保育のなかで気をつけることや、保護者に確認しておくことは何かを考えられるようになる
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	なし
関連科目	病児実践Ⅰ、病児実践Ⅲ、病児実践Ⅳ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	中岡　美由紀
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	第1部　医療的な配慮の必要な子どもを受け入れるための基礎知識	保育者はどのような情報を把握すればよいのか 保育者は保護者や子どもの主治医とどのようにかかわればよいのか
2	第1部　医療的な配慮の必要な子どもを受け入れるための基礎知識	病気のある子どもと保護者の心理 医療的な配慮が必要な子どもに対して保育者ができること
3	第1部　医療的な配慮の必要な子どもを受け入れるための基礎知識	医療的ケアとは 薬の預かりについて
4	第2部　それぞれの病気の知識と保育のときの配慮　　アレルギー	1　アトピー性皮膚炎
5	第2部　それぞれの病気の知識と保育のときの配慮　　アレルギー	2　食物アレルギー
6	第2部　それぞれの病気の知識と保育のときの配慮　　アレルギー	アナフィラキシーとは
7	第2部　それぞれの病気の知識と保育のときの配慮　　アレルギー	3　花粉症

8	第2部　それぞれの病気の知識と保育のときの配慮　　アレルギー	４　ぜんそく その他のアレルギーと遊びのなかでの配慮
9	神経系の病気	５　てんかん 熱性けいれんとてんかんの関連
10	神経系の病気	脳性まひ
11	聴覚障害	７　難聴
12	視覚障害	８　盲
13	視覚障害	９　弱視、白内障、緑内障 10　斜視
14	腎臓の病気	11　腎臓の病気
15	ホルモンに関する病気	12　低身長 13　思春期早発症
16	ホルモンに関する病気	14　ターナー症候群
17	ホルモンに関する病気	15　糖尿病
18	心臓の病気	16　心臓の病気 友だちが入院することになったとき、クラスの子どもにどう伝えるか
19	血液の病気	17　突発性血小板減少性紫斑病（免疫性血小板減少症） 18　血友病
20	血液の病気	19　重度の貧血（鉄欠乏性貧血） 病棟でのこどもたちの生活
21	血液の病気	HIVに感染した子どもを受け入れることになったら
22	がん	20　白血病 在園児が入院することになったら…その子どもにどう対応するか
23	がん	21　脳腫瘍
24	がん	22　神経芽腫
25	その他の病気	23　口唇裂・口蓋裂 抑制帯（抑制筒）について
26	その他の病気	24　水頭症 25　二分脊椎症
27	その他の病気	26　レックリングハウゼン病 27　アルビノ（白皮症）
28	その他の病気	28　ウイリアムズ症候群 29　小さく生まれた子ども（低出生体重児）
29	その他の病気	30　ADHD（注意欠如多動症）
30	その他の病気	もしも、クラスメイトが亡くなってしまったときには

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	病児実践Ⅲ／こども救急法		
必修選択	選択必修	（学則表記）	病児実践Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	30
使用教材	０～５歳児ケガと病気の予防・救急まるわかり安心ＢＯＯＫ　保育者が知っておきたい　第２版		出版社	ナツメ社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	子どもによくあるケガや病気の症状や特徴を学び、緊急時の対応を習得する
到達目標	緊急時に対する的確な対応ができる 体調が変化しやすい子どもへの対応ができる
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	なし
関連科目	病児実践Ⅰ、病児実践Ⅱ、病児実践Ⅳ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	中岡　美由紀
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	よくある子どもの体調変化	熱が出た、おう吐した、下痢をした
2	よくある子どもの体調変化	お腹を痛がる、せきが止まらない、頭を痛がる
3	よくある子どもの体調変化	けいれんしている、口やのどを痛がる
4	命にかかわる緊急時の対応	熱中症
5	命にかかわる緊急時の対応	緊急マニュアル、心肺蘇生法
6	命にかかわる緊急時の対応	おぼれた、誤飲した、やけどをした
7	命にかかわる緊急時の対応	頭を打った、骨折した、止血法、包帯の巻き方
8	命にかかわる緊急時の対応	包帯の巻き方（三角巾）、アナフィラキシー

9	第1章 園生活でよくある子どものけが	すり傷・切り傷、鼻血が出た
10	第1章 園生活でよくある子どものけが	口の中をけがした、打撲した、指を挟んだ・つめをけがした
11	第1章 園生活でよくある子どものけが	だっきゅうした・ねんざした、虫に刺された、目・鼻・耳に異物が入った
12	第1章 園生活でよくある子どものけが	かまれた、子ども同士のかみつき、かぶれた
13	第1章 園生活でよくある子どものけが	保育環境の安全対策
14	第1章 園生活でよくある子どものけが	園の災害対策、保護者連絡
15	第２章 園児がかかりやすい子どもの病気	毎日の健康観察、風邪症候群、咽頭炎、扁桃炎
16	第２章 園児がかかりやすい子どもの病気	気管支炎、ぜんそく様気管支炎、肺炎
17	第２章 園児がかかりやすい子どもの病気	急性中耳炎、滲出性中耳炎、外耳炎、副鼻腔炎
18	第２章 園児がかかりやすい子どもの病気	脳炎・脳症、髄膜炎、川崎病
19	第２章 園児がかかりやすい子どもの病気	脂ろう性湿疹、あせも、おむつかぶれ、カンジダ性皮膚炎
20	第２章 園児がかかりやすい子どもの病気	アレルギーについて知っておこう、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、気管支ぜんそく
21	第２章 園児がかかりやすい子どもの病気	アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、じんましん、アレルギーに対応するときのポイント
22	第3章 園で流行しやすい感染症	感染経路と感染対策、消毒液の使い方、学校感染症と予防接種、インフルエンザ
23	第3章 園で流行しやすい感染症	麻疹、風疹、百日ぜき、水痘
24	第3章 園で流行しやすい感染症	咽頭結膜熱、流行性角結膜炎、ＲＳウイルス感染症、クループ症候群
25	第3章 園で流行しやすい感染症	手足口病、伝染性紅斑、突発性発疹、ポツポツ（発しん）がある
26	第3章 園で流行しやすい感染症	伝染性軟属腫、伝染性膿痂疹、アタマジラミ
27	第3章 園で流行しやすい感染症	流行性耳下腺炎、溶連菌感染症、ヘルパンギーナ
28	第3章 園で流行しやすい感染症	腸管出血性大腸菌感染症、食中毒と予防法、感染性胃腸炎
29	第3章 園で流行しやすい感染症	感染症を防ぐ衛生管理
30	第3章 園で流行しやすい感染症	乳幼児突然死症候群（SIDS)の予防法、子どもを虐待から守るために

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	病児実践Ⅳ／ベビーシッター論		
必修選択	選択必修	（学則表記）	病児実践Ⅳ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	家庭訪問保育の理論と実際 第３版		出版社	中央法規	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	ベビーシッターなど居宅訪問型保育者となるために必要な知識と技術を身につける
到達目標	・居宅訪問型保育者の社会的背景、経緯、位置づけについて理解する。 ・居宅訪問型保育者の役割について理解する。 ・訪問保育を行ううえで必要となる健康管理や疾病の予防又は対応など基礎知識について理解し、行うことができる。 ・抱っこやオムツ交換、服の着脱など、子どもと接する際に必要となる基本技術を行うことができる。 ・居宅訪問型保育を利用する家庭のニーズを知り、環境整備、保育者としての基礎姿勢、保護者への対応など配慮事項について理解する。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	なし
関連科目	病児実践Ⅰ、病児実践Ⅱ、病児実践Ⅲ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。

担当教員	岡林　優子	実務経験	○
実務内容	認定保育園にて22年勤務、クラス担任・副主任を経験		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	家庭訪問保育とは	授業の流れ、到達目標の説明 家庭訪問保育の体系
2	居宅訪問型保育の概要①	居宅訪問型保育の社会的背景、経緯、歴史、概要
3	居宅訪問型保育の概要②	地域子ども子育て支援事業における居宅訪問型保育の展開
4	乳幼児の生活と遊び	子どもの発達と生活
5	乳幼児の発達と心理①	乳幼児の発達過程（言葉、他者、探索、移動）、保育者の役割
6	乳幼児の発達と心理②	乳幼児の発達過程（言葉、他者、探索、移動）、保育者の役割

7	乳幼児の発達と心理③ 振り返り	乳幼児の発達過程（言葉、他者、探索、移動）、保育者の役割 これまでの振り返りとまとめ
8	乳幼児の食事と栄養①	乳児期（授乳・離乳の支援、離乳食の意味）、幼児期（幼児期の食事）
9	乳幼児の食事と栄養②	食物アレルギーなど、健康状態を考慮した食事、乳幼児期の食育
10	小児保健Ⅰ	乳幼児の健康観察のポイント、衛生管理・消毒について
11	小児保健Ⅱ①	子どもに多い症状や病気とその対応
12	小児保健Ⅱ②	事故予防と対応
13	小児保健Ⅱ③ 振り返り	心肺蘇生法 これまでの振り返りとまとめ
14	実践演習①	お世話編（睡眠、抱っこ、おんぶ、おむつ替え、着替え、）
15	実践演習②	お世話編（睡眠、抱っこ、おんぶ、おむつ替え、着替え）
16	居宅訪問型保育の保育内容①	居宅訪問型保育の内容、特徴、配慮事項
17	居宅訪問型保育の保育内容②	保育の計画に基づき行う保育
18	居宅訪問型保育における環境整備	居宅訪問型保育に必要な環境の基本
19	居宅訪問型保育の運営	居宅訪問型保育の業務の流れ、居宅訪問型保育者のマナー
20	安全の確保とリスクマネジメント	子どもの事故と予防、保育上の留意点、安全チェックリスト
21	居宅訪問型保育の職業倫理と配慮事項	居宅訪問型保育者としての基本姿勢と職業倫理
22	居宅訪問型保育における保護者への対応	居宅訪問型保育における保護者支援の必要性
23	振り返り 実践演習	これまでを振り返りとまとめ 遊び編（居宅での保育における遊び）
24	子どもの虐待①	子どもの虐待とは、子ども虐待の実態
25	子どもの虐待②	子どもの虐待の発見と通告
26	特別に配慮を要する 子どもへの対応（０～２歳児）	気になる行動、対応の仕方、居宅訪問型保育者の役割
27	これまでの振り返り	これまでを振り返りとまとめ
28	一般家庭訪問保育の業務の流れ	家庭訪問保育の業務の流れ
29	さまざまな家庭訪問保育	産後ケア、病児・病後児保育、障害児保育、送迎・同行保育、多胎児の保育、学童の保育
30	まとめ	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	音楽実践Ⅰ（音楽実践）		
必修選択	選択必修	（学則表記）	音楽実践Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	３つのコードで楽らく弾けるピアノ伴奏曲集 保育の先生・学生さんへ 現場で使える定番こどものうた＆おまけの解説つき！		出版社	ドレミ楽譜出版社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	伴奏アレンジ・移調を含めた総合的なピアノ技術を身につける。
到達目標	和音の機能を理解し、歌の伴奏ができる。 現場の状況に合わせて伴奏をアレンジし、応用できる。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	なし
関連科目	音楽実践Ⅱ・音楽実践Ⅲ・音楽実践Ⅳ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	門井　杏奈
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	コード付け導入	授業の流れ、到達目標、音程と音階
2	ハ長調の主要三和音	ハ長調の主要三和音
3	ハ長調の主要三和音	ハ長調の主要三和音とコードの基本形と転回形
4	ハ長調の主要三和音	ハ長調の主要三和音と属七の和音
5	ハ長調の主要三和音	ハ長調の副三和音
6	ハ長調の主要三和音	ハ長調の副三和音と様々なアレンジ
7	ハ長調の主要三和音	ハ長調の副三和音と様々なアレンジ

8	成果発表①	演奏発表
9	ヘ長調・ト長調の主要三和音	ヘ長調・ト長調の主要三和音と転回形
10	ヘ長調・ト長調の主要三和音	ヘ長調の主要三和音と属七の和音
11	ヘ長調・ト長調の副三和音	ヘ長調・ト長調の副三和音
12	代理和音	副三和音と代理和音
13	借用和音	借用属七の和音
14	借用和音	代理和音と借用和音
15	成果発表②	演奏発表
16	経過和音	経過和音の種類
17	経過和音	経過和音
18	経過和音	経過和音
19	短調のコード	短音階と短調のコード
20	短調のコード	日本音階と短調のコード
21	短調のコード	短調のコード
22	成果発表③	演奏発表
23	コードの移調	コードの移調
24	循環コード	コード進行
25	循環コード	コード進行
26	循環コード	コード進行
27	スキルアップ	コードの色々
28	スキルアップ	Exercise
29	まとめ	これまでの振り返り
30	成果発表④	演奏発表

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	音楽実践Ⅱ（音楽遊び）		
必修選択	選択必修	（学則表記）	音楽実践Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	アクティブラーニングを取り入れた子どもの発達と音楽表現　幼稚園教諭・保育士養成課程		出版社	学文社	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	聴く、歌う、奏でる、動く活動を基に想像性や創造性のある音楽教育へと発展させる知識や技術を身につける。		
到達目標	子どもの発達と音楽表現について理解できる 子どもの発達に応じた音楽教育の知識と技術を身につける 子どもの音楽劇の実践と指導ができる		
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。		
関連資格	なし		
関連科目	音楽実践Ⅰ・音楽実践Ⅲ・音楽実践Ⅳ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	藤原　葉子	実務経験	○
実務内容	楽器店音楽教室講師 7年		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 子どもの発達と表現	授業の流れ　到達目標　子どもの音楽表現活動
2	音楽の要素と音楽表現	手遊びや歌遊びの体験と表現遊び
3	音楽の要素と音楽表現	表現遊びのプログラム作成
4	音楽の要素と音楽表現	表現遊びのプログラム発表
5	子どもの発達と音楽表現	子どもの発達に合った手遊び・歌遊び
6	子どもの発達と音楽表現	発達に合った遊びの展開と指導計画立案と発表
7	聴く活動	子どもの発達と聴く活動
8	聴く活動	聴く活動の援助について

9	聴く活動	聴く活動の実践
10	歌う活動	子どもの発達と歌う活動
11	歌う活動	歌う活動の実践
12	歌う活動	歌う活動の実践
13	前期のまとめ	子どもの音楽劇
14	前期のまとめ	子どもの音楽劇
15	前期のまとめ	子どもの音楽劇
16	奏でる活動	楽器と奏法
17	奏でる活動	リズムの創作とリズム譜の作成
18	奏でる活動	リズムの創作とリズム譜の作成
19	奏でる活動	奏でる活動の実践
20	奏でる活動	奏でる活動の実践
21	つくる活動	子どもの発達とつくる活動 効果音を使った表現遊び
22	つくる活動	効果音を使った表現遊び
23	つくる活動	手作り楽器の制作と合奏
24	つくる活動	子どものための音楽劇鑑賞
25	つくる活動	子どものための音楽劇鑑賞
26	つくる活動	子どものための音楽劇鑑賞
27	つくる活動	子どものための音楽劇鑑賞
28	つくる活動	子どものための音楽劇鑑賞
29	つくる活動	子どものための音楽劇鑑賞
30	表現活動のまとめ	音楽劇の発表

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	音楽実践Ⅲ（リトミック）		
必修選択	選択必修	（学則表記）	音楽実践Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	・年齢別の基本レッスンから発表会までリトミック百科 ・うごきのためのリトミック百科ピアノ曲集		出版社	ひかりのくに	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	リトミックの意義を理解する。リトミックの指導技術を習得する。
到達目標	音楽が動きで表現できることを理解する。 リトミック活動に必要なピアノ演奏ができる。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	なし
関連科目	音楽実践Ⅰ・音楽実践Ⅱ・音楽実践Ⅳ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	武村　祐子
実務経験	○
実務内容	幼稚園教諭 11年勤務・乳幼児リトミック指導20年以上・子育て支援拠点勤務10年目

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業内容について、リトミックの概要
2	4月の活動	音の認識と即時反応
3	ピアノ（導入A）	動きのためのピアノ奏
4	５月の活動	音の長さを表現する
5	ピアノ（導入B）	様々なリズムのピアノ奏
6	６月の活動	音楽の始まりと終わりを感じる
7	ピアノ（導入C）	ストップ・ポーズ・バックのピアノ奏
8	７月の活動	リズムに乗って動く

9	ピアノ（導入D）	飛ぶ・回る・這う動きのピアノ奏
10	８月の活動	異年齢のリトミック活動と表現
11	ピアノ（かけ足）	かけ足のピアノ奏
12	９月の活動	拍と拍子とスウィング
13	ピアノ（歩き）	歩くピアノ奏
14	ピアノ（ゆっくりの動き）	ゆっくりの動きのピアノ奏
15	前期のまとめ	前期の振り返り
16	10月の活動	自己表現の力
17	ピアノ（揺れる動き）	揺れる動きのピアノ奏
18	11月の活動	動きの感覚を育てる
19	ピアノ（跳ぶ動き）	跳ぶ動きのピアノ奏
20	12月の活動	音楽に合わせて動く
21	色々な動きの活動	色々な動きのピアノ奏とピアノの合図
22	色々な動きの活動	色々な動きのピアノ奏とピアノの合図
23	3歳児のリトミック発表	3歳児のリトミックについて
24	4歳児のリトミック発表	4歳児のリトミックについて
25	5歳児のリトミック発表	5歳児のリトミックについて
26	成果発表①	低年齢児のリトミック遊びを考える
27	成果発表②	低年齢児のリトミック遊びを考える
28	成果発表③	4・5歳児のリトミック遊びを考える
29	成果発表④	4・5歳児のリトミック遊びを考える
30	まとめ	一年間のまとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	音楽実践Ⅳ（こどもと音楽）		
必修選択	選択必修	（学則表記）	音楽実践Ⅳ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	保育者・教師をめざす人、集まれ～！ みんなピアノ大好き！		出版社	全音楽譜出版社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	クラシックやポップスなど幅広い音楽のレパートリーを学習し、保育現場に活かせる音楽表現技術を身に付ける。
到達目標	様々なジャンルの曲を正しく理解し、その曲に合った演奏表現ができる。 ピアノ等でのアンサンブルを通して、各パートの内容を理解し演奏することができる。 コードを理解して曲に合ったアレンジをすることができる。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	なし
関連科目	音楽実践Ⅰ・音楽実践Ⅱ・音楽実践Ⅲ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	和泉　貴子
実務経験	○
実務内容	ピアノレッスン指導歴8年。日本クラシック音楽コンクール審査員。桐朋学園大学音楽学部附属子供のための音楽教室 仙川教室ソルフェージュ非常勤講師。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について
2	マーチ（1）	マーチ曲をコードアレンジやソロ・連弾を通して学習する
3	マーチ（2）	マーチ曲をコードアレンジやソロ・連弾を通して学習する
4	マーチ（3）	マーチ曲をコードアレンジやソロ・連弾を通して学習する
5	マーチ（4）	マーチ曲をコードアレンジやソロ・連弾を通して学習する
6	ダンス（1）	ダンス曲をコードアレンジやソロ・連弾を通して学習する
7	ダンス（2）	ダンス曲をコードアレンジやソロ・連弾を通して学習する
8	成果発表①	マーチ・ダンス曲の演奏発表

9	日本の音楽	日本の音楽（わらべうた等）をコードアレンジやソロ・連弾を通して学習する
10	世界の音楽（1）	世界の様々な音楽について学ぶ、連弾によるアンサンブルを学習する
11	世界の音楽（2）	世界の様々な音楽について学ぶ、連弾によるアンサンブルを学習する
12	ポップス（1）	ポップス曲をコードアレンジやソロ・連弾を通して学習する
13	ポップス（2）	ポップス曲をコードアレンジやソロ・連弾を通して学習する
14	ポップス（3）	ポップス曲をコードアレンジやソロ・連弾を通して学習する
15	成果発表②	日本の音楽・世界の音楽・ポップス曲の演奏発表
16	クラシック（1）	クラシック曲について学習する 曲の背景について調べたり、ピアノ以外の作品の鑑賞を行う
17	クラシック（2）	クラシック曲について学習する 曲の背景について調べたり、ピアノ以外の作品の鑑賞を行う
18	クラシック（3）	クラシック曲について学習する 曲の背景について調べたり、ピアノ以外の作品の鑑賞を行う
19	クラシック（4）	クラシック曲について学習する 曲の背景について調べたり、ピアノ以外の作品の鑑賞を行う
20	成果発表③	クラシック曲の演奏発表
21	クラシック（5）	クラシック曲のアンサンブル作品依ついて学習する
22	クラシック（6）	クラシック曲のアンサンブル作品依ついて学習する
23	クラシック（7）	クラシック曲のアンサンブル作品依ついて学習する
24	クラシック（8）	クラシック曲のアンサンブル作品依ついて学習する
25	成果発表④	クラシック曲の演奏発表
26	音楽づくり（1）	様々なジャンルの音楽による即興演奏について学習する
27	音楽づくり（2）	様々なジャンルの音楽による即興演奏について学習する
28	音楽づくり（3）	様々なジャンルの音楽による即興演奏について学習する
29	音楽づくり（4）	様々なジャンルの音楽による即興演奏について学習する
30	一年間のまとめ	成果発表会

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	食育実践Ⅰ／子どもの食育		
必修選択	選択必修	（学則表記）	食育実践Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	プラクティス栄養学『こどものための栄養』		出版社	Original Nutrition株式会社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	『実践できる栄養学』を修得して保育士としての食事サポートや家族とのコミュニケーションスキルとしての栄養学を身につけることを目的として実施。
到達目標	①こどもの心と体の健康を育むための基本知識と実践力を習得する。 ②食生活を通じてこどもの知育と発達を保護する。 ③栄養と発育に関する家族とのコミュニケーションを図る。
評価基準	授業内で実施する試験（中間・期末）、必要に応じて小テストやレポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が2以上のもの。
関連資格	こども栄養アドバイザー
関連科目	食育実践Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	隅　弘子
実務経験	○
実務内容	子育て支援施設内食事相談、子育て支援ボランティア講座担当　他

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	アイスブレイク。授業の説明や資格について概要説明。
2	保育者にとって大切な栄養	第1章。幼稚園や保育園での栄養士業務について理解し、保育士が栄養学を学ぶメリットや、子供の食の大切さについて解説・議論する。
3	脳・身体の発達と栄養	第2章。こどもの脳や身体の発達に必要な栄養を学びます。
4	食品群と栄養	第3章。3色食品群など普及されている食品群について学びます。
5	こどものための食の選び方	食品カテゴリーマップ®を解説。主食・主菜・副菜の大切さや自分の食生活を見直す。
6	中間テスト＋食品の栄養と働き 実践①：カテゴリー1	第4章。中間テスト＋こどもにおける食品カテゴリーマップのカテゴリー1の役割について解説。
7	食品の栄養と働き 実践②：カテゴリー1	こどもにおける食品カテゴリーマップのカテゴリー1の役割について解説。
8	食品の栄養と働き 実践①：カテゴリー2	こどもにおける食品カテゴリーマップのカテゴリー2の役割について解説。

9	食品の栄養と働き 実践②：カテゴリー2	こどもにおける食品カテゴリーマップのカテゴリー2の役割について解説。
10	食品の栄養と働き 実践①：カテゴリー3	こどもにおける食品カテゴリーマップのカテゴリー3の役割について解説。
11	食品の栄養と働き 実践②：カテゴリー3	こどもにおける食品カテゴリーマップのカテゴリー3の役割について解説。
12	食品の栄養と働き 補足：ビタミンとミネラル	ビタミンとミネラルの役割や種類など基本を整理して応用につなげる。
13	期末テスト＋バランス食の作り方について	期末テストを実施。食品カテゴリーマップを使ったバランス食の作り方を指導する。
14	食品の栄養と働き 実践①：カテゴリー4	こどもにおける食品カテゴリーマップのカテゴリー4の役割について解説。
15	食品の栄養と働き 実践①：カテゴリー5	こどもにおける食品カテゴリーマップのカテゴリー5の役割について解説。
16	前期の総復習	アイスブレイク。後期開始となるので前期のおさらい。
17	食品の栄養と働き 実践①：カテゴリー6	こどもにおける食品カテゴリーマップのカテゴリー6の役割について解説。
18	食品の栄養と働き 実践①：カテゴリー7	お酒について自由に解説。こどもが飲酒してはいけない理由やアルコールの基礎を学ぶ。
19	食品の栄養と働き 三大栄養素について	三大栄養素（エネルギー産生栄養素）について、その生理機能を解説。
20	食品の栄養と働き 五大栄養素について	五大栄養素（ビタミン・ミネラル）について、その生理機能を解説。
21	中間テスト＋子どもの水分補給	第5章。中間テスト実施。子どもの水分補給について解説。
22	免疫とライフスタイル	身体に備わる免疫機能、ライフスタイルと免疫力を解説。こどもがかかりやすい病気や免疫と栄養について学ぶ。
23	食物アレルギーと栄養	食物アレルギーや、現場での対応について解説。
24	食品表示の基礎	第6章。食品表示は安全かつ合理的な食品選択のために大切な情報源であることを解説。
25	食品添加物について	食品添加物との付き合い方や種類を解説。
26	食の多様化と食品選択	国際社会と食品選びについて解説。
27	保育者の健康	教える側の体型の問題や生活習慣の乱れはこどもにも大きく影響することを理解し、自己管理するための栄養管理法を解説。
28	期末テスト＋栄養学は人生を輝かせる	期末テストを実施。おもてなしの大切さと栄養学の本質について解説します。
29	栄養学は人生を輝かせる	おもてなしの大切さと栄養学の本質について解説します。
30	授業調整週	中間テストや期末テストで遅れている内容の調整週となります。必要に応じて補足授業を実施。

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	食育実践Ⅱ/乳幼児の食事		
必修選択	選択必修	(学則表記)	食育実践Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	子どもの食と栄養演習(第６版)		出版社	建帛社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	保育士、幼稚園教諭等に必要とされる食に関する基礎知識を効果的に身につける。
到達目標	「子どもの食と栄養」で学んだ、豊かで健やかな食生活を送る能力を育てる「食育」について理解できる。履修する学生が、食生活に興味を持つ契機となり、栄養学の重要性を感じられるように、乳幼児期の食事を学ぶことができる。講義と調理実習・演習を通して新しい時代の保育現場で必要な子どもへの理解や保護者支援について理解を深め食育を実践できる力を養う。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	なし
関連科目	食育実践Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	岩月　里江子
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業予定、到達目標について
2	第1章子どもの健康と食生活の意義①	子どもの心身の健康と食生活
3	第1章子どもの健康と食生活の意義②	子どもの食生活の現状と課題・食に関する指針
4	第1章子どもの健康と食生活の意義③	○演習：食生活のチェック表作成
5	第2章栄養と食品に関する基礎的知識①	栄養の基本的概念と栄養素の働き・日本人の食事摂取基準
6	第2章栄養と食品に関する基礎的知識②	食品の基礎知識
7	第2章栄養と食品に関する基礎的知識③	○演習：食品構成測定・食品表示
8	第2章栄養と食品に関する基礎的知識④	○演習：献立作成と調理の基本

9	第2章栄養と食品に関する基礎的知識⑤	◎調理実習：1日の献立
10	第2章栄養と食品に関する基礎的知識⑥	◎調理実習：1日の献立
11	第3章子どもの発育・発達と栄養生理①	子どもの発育と発達
12	第3章子どもの発育・発達と栄養生理②	子どもの栄養と生理
13	第４章子どもの発育・発達と食生活①	授乳期の意義と食生活
14	第４章子どもの発育・発達と食生活②	〇演習：母乳育児支援　（調査）・調乳体験
15	まとめ・ふり返り	前期のまとめ・ふり返り
16	第４章子どもの発育・発達と食生活③	離乳期の意義と食生活
17	第４章子どもの発育・発達と食生活④	◎調理実習：離乳食
18	第４章子どもの発育・発達と食生活⑤	〇演習：離乳期の食育の実践
19	第４章子どもの発育・発達と食生活⑥	〇演習：幼児の食事バランスガイドの活用
20	第４章子どもの発育・発達と食生活⑦	◎調理実習：幼児期の間食
21	第４章子どもの発育・発達と食生活⑧	〇演習：幼児期のお弁当
22	第４章子どもの発育・発達と食生活⑨	〇演習：食教育媒体・演習・幼児期の食育
23	第５章子どもの発育・発達と食生活Ⅱ①	学童期・思春期の心身の発達と食生活
24	第５章子どもの発育・発達と食生活Ⅱ②	妊娠期の心身の食生活　　〇演習:妊婦の食事バランスガイドの活用
25	第6章食の基本と内容	〇演習：食育指導計画の作成・及び家庭への周知
26	第7章家庭や児童福祉施設における食事と栄養	〇演習：保護者に向けてのお便りの作成・児童福祉施設における食事
27	第８章特別な配慮を要する子どもの食と栄養①	〇演習：食物アレルギーへの対応・障害がある子どもへの対応
28	第８章特別な配慮を要する子どもの食と栄養②	〇演習：疾病・体調不良・アレルギー・障害がある子どもへの対応
29	まとめ・ふり返り	後期のまとめ・ふり返り
30	ふり返り　まとめ	1年間のまとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	食育実践Ⅲ／季節のごはん		
必修選択	選択必修	（学則表記）	食育実践Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	食で楽しむ年中行事12か月		出版社	あいり出版	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	日本の四季折々の行事の由来と行事食について実際に「行事食」を調理し、体験することにより理解を深める。		
到達目標	子どもに『行事の由来』や『日本の伝統文化』を伝える知識と技術を習得する。行事食を調理し、体験することで食の大切さを子どもたちに伝えることが出来る。		
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。		
関連資格	なし		
関連科目	食育実戦　Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	岩月　里江子	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	行事と保育における食育との関連性を説明する。
2	春の行事食	春の行事食について調べる。
3	四月：花見・花祭り	お花見・花祭りについての知識を身につける。
4	春の行事食調理①	お花見弁当やお花見団子を調理する。
5	五月：八十八夜・端午の節句	端午の節句・八十八夜についての知識を身につける。
6	春の行事食調理②	若竹汁・鯉のぼりごはん・竹の子ごはんや中華ちまき窓を調理する。
7	六月；梅雨・夏越の祓	おにぎり・魚の梅煮・梅干しやゆかりを使った副菜を考案し調理する。クエン酸について調べる。

8	春の行事食調理③	アジサイゼリー・かえるパン等季節を感じるメニューを考え調理する。
9	まとめ	春の行事と行事食について確認する。
10	プレゼンテーション	調べたことを発表する。
11	七月：七夕・土用の丑	夏の行事食について調べる.7月：七夕（織姫彦星について）知識を身につける。
12	夏の行事食調理①	七夕そうめん・天の川ゼリーなどの行事食を調理する。
13	八月：八朔・お盆	8月：お盆の時のお祭りやの日本の風習について学ぶ
14	夏の行事食調理②	夏野菜カレー・すいかパンチ・地域の郷土料理についてや夏野菜の栄養成分効果的な食べ方を知る。
15	まとめ	夏の行事と行事食について確認
16	九月：十五夜・重陽の節句	９月：十五夜・菊の花　の行事や幼児が誤嚥しにくい調理法を学ぶ。
17	秋の行事食調理①	中華風おこわ・菊の花の酢の物・月見団子を調理する。
18	十月：亥の子・月見	10月：お月見について学ぶ。お供えや掲示物の簡単な制作をする。
19	秋の行事食調理②	がんづき・シェパーズパイ・里芋料理 を調理する。
20	十一月：新嘗祭・七五三	11月：七五三の由来　・冬至かぼちゃ・箸のマナーについての知識を身につける。
21	秋の行事食調理③	かぼちゃパイ・スイートポテトを成形し調理する。
22	十二月：大根焚き・冬至	12月クリスマス・日本に伝わる食に関する知識・ことわざについて学ぶ。
23	冬の行事食調理①	カレーピラフ・ローストチキン・サラダ・スープを調理する。
24	一月：正月：冬の行事食調理②	１月：おせち料理・だし巻き卵・雑煮等を調理し、由来や地域性を知る。
25	二月：節分・針供養	２月：節分について理解を深める。鬼のお面を作る。大豆の栄養を知る。
26	三月：桃の節句：冬の行事食調理③	３月：桃の節句について学び、調理する。ちらし寿司・桜餅・紅白真珠蒸し、から1つ調理する。
27	まとめ	秋・冬の行事と行事食について確認
28	生徒メニュー考案	卒園式：子どもが喜ぶ献立を生徒自身が考案する。
29	まとめの調理	自ら立てたレシピと栄養について調べ調理する。レポートを提出する。
30	プレゼンテーション準備	１年を通して学んだことを発表する。

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	食育実践Ⅳ／こどもとおやつ		
必修選択	選択必修	（学則表記）	食育実践Ⅳ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	子どもに食べさせたいおやつ		出版社	暮らしの手帳社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	子どもの間食（おやつ）についての知識を習得し、食育の実践に結びつけられるよう、調理実習を通じて学ぶ。
到達目標	・子どもの適切な間食（おやつ）の提案ができる。 ・基本的な調理ができる。 ・時節にあった食材を知る。 ・子どもと楽しく、食教育ができる保育士になる。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	なし
関連科目	食育実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	金澤　里奈
実務経験	○
実務内容	管理栄養士、保育園給食業務2年、大学栄養士課程実験実習助手4年

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について、調理器具、実習室利用の説明、簡単なおやつ
2	毎日のおやつ（春夏）①	ごはんのおやつ
3	毎日のおやつ（春夏）②	ジャガイモのおやつ
4	毎日のおやつ（春夏）③	葛のおやつ
5	週末のおやつ（春夏）①	大豆のおやつ
6	週末のおやつ（春夏）②	バナナのおやつ
7	週末のおやつ（春夏）③	噛み応えのあるおやつ

8	特別な日のおやつ（春夏）①	お誕生日メニュー
9	特別な日のおやつ（春夏）②	冷たいおやつ①
10	特別な日のおやつ（春夏）③	冷たいおやつ②
11	行事・郷土のおやつ（春夏）	地域の郷土料理、行事のおやつ
12	生徒の考えるおやつ①	レシピ企画；生徒が幼児に適したおやつを考案し、検討する
13	生徒の考えるおやつ②	レシピ作成；生徒がつくるおやつのレシピ作成する
14	生徒の考えるおやつ③	調理の実施；生徒の作ったおやつレシピを調理し、試食、考察する
15	まとめ	前期のふりかえり
16	毎日のおやつ（秋冬）①	お芋のおやつ①
17	毎日のおやつ（秋冬）②	お芋のおやつ②
18	毎日のおやつ（秋冬）③	大根のおやつ
19	週末のおやつ（秋冬）①	人参のおやつ
20	週末のおやつ（秋冬）②	米粉のおやつ
21	週末のおやつ（秋冬）③	温かいおやつ
22	特別な日のおやつ（秋冬）①	小豆のおやつ
23	特別な日のおやつ（秋冬）②	お餅のおやつ
24	特別な日のおやつ（秋冬）③	行事のおやつ
25	行事・郷土のおやつ（秋冬）	地域の郷土料理のおやつ
26	アレルギー対応のおやつ	卵、乳製品をつかわないおやつ
27	生徒の考えるおやつ（秋冬）①	レシピ企画；生徒が幼児に適したおやつを考案し、検討する
28	生徒の考えるおやつ（秋冬）②	レシピ作成；生徒がつくるおやつのレシピ作成する
29	生徒の考えるおやつ（秋冬）③	調理の実施；生徒の作ったおやつレシピを調理し、試食、考察する
30	まとめ	後期、および一年の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	デザイン実践Ⅰ(キッズワークショップ)		
必修選択	選択必修	(学則表記)	デザイン実践Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	保育現場のICT活用ガイド		出版社	中央法規出版株式会社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	現代社会で不可欠なICTを理解し必要な知識やスキルを習得するとともに、ICTを駆使して問題を解決する能力を養い、創造的な発想や革新的な解決策を見つける力を高めることにより、保育現場において子どもの年齢に応じた適切な学びのツールや環境作りを行うことができる人材を目指す。またプログラミング教育を理解し必要な知識やスキルを習得するとともに、プログラミング的思考を身に付け、自分が意図する一連の活動を実現するための問題解決力を高めることにより、保育現場において子どもの年齢に応じた適切な学びのツールや環境作りを行うことができる人材を目指す。
到達目標	ICTリテラシーを身につけることで、保育の現場で活用できる技術を見極め、必要な情報を整理することが出来る。Excelやスプレッドシートを利用して、必要な操作を習得し、情報管理ができる。インターネット上での情報取集やデジタルコミュニケーションが円滑に行える。プログラミング教育の概要を理解し、発達段階に即したプログラミング的思考の育成に必要な基礎的スキルを身につけている。(コンピューターやプログラミングの概念にもとづいた問題解決型の思考)
評価基準	授業内で実施する試験、作成物提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	パソコン検定
関連科目	デザイン実践Ⅱ・デザイン実践Ⅲ・デザイン実践Ⅳ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	岡崎　大介
実務経験	○
実務内容	弊社ロボット科学教育クレファス（ロボットプログラミング教室）でのロボットプログラミング指導歴19年

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業のねらい・到達目標についての説明、導入
2	ICTと保育現場の現状 ITとICT/ICTを活用する為の環境	ｐ2～9コロナ渦におけるＩＣＴの活用、現場の声と課題、今後の使われ方 ｐ10～14人と人がつながる　/　ハードウェア　/　ソフトウェア　/　ネットワーク環境
3	クラウドのしくみ 実習の事前準備/実習日誌	ｐ15～21記録媒体のリスク/クラウドとは/クラウド・ストレージ・サービス/クラウドのメリット/SaaS 二つの事前準備、ICTを活用した実習オリエンテーション、準備・持ち物等の確認 実習日誌はコミュニケーション手段、メモの活用、実習日誌のICT化

4	指導計画の作成 遊び・活動/リテラシー	具体的かつ詳細に記す、コメント機能を活用する レパートリーを増やすには？、動画配信サイトを活用した手遊び・歌遊びの習得 想像力を膨らませるためのICT活用、リテラシーが求められる背景、便利だからこそ正しく使う
5	指導計画 日々の記録/申し送り	ｐ22～27 膨大な計画数、関連する指導経過間の連携、手書きより柔軟性が高い、柔軟性の欠点。データベースソフトの活用 ｐ28～32　質の高い記録の為に、写真や動画も記録適切に伝わることが最低条件、効率よい業務のために
6	活動場所の管理/シフト管理	情報を共有する、WEBカレンダーで管理・共有する、Excelが便利
7	園内研修/公開保育 外部研修	ICTで知識・技術を身につける、ICTで時間を確保する、オンラインでの園内研修、クラウドを用いた資料の配布 オンラインでの公開保育、動画配信による公開保育 コロナ渦で大きく変化、オンラインでの外部研修、動画配信による外部研修
8	手遊び・歌遊び/絵本や紙芝居の読み聞かせ/創作活動/午睡	ICTで身近に豊かに、手遊び・歌遊びの伴奏としてのICTの活用、手軽な音源や楽器としてのICTの活用 紙の課題、書画カメラを使っての読み聞かせ、手作り絵本を電子絵本に ICTで新たな変化、お絵かきとしてのタブレットの利用、子どもの想像力を膨らませるICTの活用 より具体的な創作活動につながるICT活用、保育者にとって大きな負担、ICTによる午睡状態の把握
9	排泄/探索活動	状況の共有が命を守る、ICTを活用した排泄状況の管理、排泄の状態把握としての写真・画像の活用 おむつの個数（在庫）管理　/　興味・関心をICTで深める、デジタルカメラ、デジタルビデオカメラ、映像や画像で心を養う、デジタル・マイクロスコープ
10	遊び（安全管理の視点） 園外活動（散歩など）	事故を防ぐ、安全点検のデータ化、保育者のリスク感性を高めるためのICTの活用 事故検証のためのICTの活用、振り返りと予防 危険を認識する、園外活動の経路・場所の確認・共有、すぐに連絡が取れる体制の確保、位置情報の確認
11	食事/行事/育ちの評価（主に身体面）	情報の取集と蓄積、喫食状況の把握、食育活動 コロナ渦での変化、オンラインによる行事の配信、動画による行事の配信・配布、園内行事での家庭との連携 成長を支える、育ちの様子を情報として蓄積・管理、ICTを用いた子どもの育ちの評価、ICTを備えた測定機器
12	配慮を必要とする子どもへのかかわり/保育中の緊急時対応/朝の送り/日中の保育/夕方のお迎え	配慮を必要とする子どもへの対応とICT、食材の把握・確認におけるICTの活用、生きやすさを支えるＩＣＴの活用 事前に活用方法を検討、連携手段としてのＩＣＴの活用、情報源としてのＩＣＴの活用 煩雑な登園時間管理、出欠席・登園時間管理でのＩＣＴの活用、欠席情報の連絡方法 登園時の保護者との情報共有、ミスを防ぐしくみ、複数の連絡手段があるメリット・デメリット　etc…
13	緊急時の保護者対応 行事運営/園だより・おたより・連絡帳	子どもの安全確保が第一優先、緊急時初期の連絡手段・情報発信としてのICTの活用 緊急時の二次的対応としてのICTの活用 行事における保護者との連携、保護者の意向を把握するためのICTの活用（日程調整） 文書・配布物はコミュニケーションツール、手書きは個性が表れる、ICTを活用して文書を作成することの利点
14	授業の理解①演習 授業の理解②振り返り	コロナ渦の変化、オンライン授業支援システムを活用したグループワーク オンライン授業支援システムを活用した発表・技術の習得 ICTで効率的に、クラウド上に保存された資料での振り返り、クイズ作成ツールの活用
15	前期テスト	テストを実施する
16	テストのまとめ、前期の振り返り	テストの振り返りと前期のまとめを行う
17	viscuitによるプログラミング1	ビスケットの使い方、ボタンの説明 いろいろな動きを作る
18	viscuitによるプログラミング2	ゲームを作る

19	Scratchによるプログラミング1	Scrachの基本を身につける
20	Scratchによるプログラミング2	Scratchを用いてプログラムの流れを把握する
21	Scratchによるプログラミング3	Scratchを用いて変数とリストを理解する
22	Scratchによるプログラミング4	Scratchを用いてメソッドの使い方、並行処理と並列処理を理解する
23	Scratchによるプログラミング5	Scratchによるゲーム作成を行う
24	教材とカリキュラム案の作成1	保育現場におけるビジュアルプログラミングツールによるプログラミング教育のカリキュラム案と教材の作成
25	教材とカリキュラム案の作成2	保育現場におけるビジュアルプログラミングツールによるプログラミング教育のカリキュラム案と教材の作成
26	教材作成、カリキュラム課題についてのプレゼン資料制作1	保育現場におけるビジュアルプログラミングツールを使ったプログラミング教育のカリキュラム案と教材についてのプレゼン資料の作成
27	教材作成、カリキュラム課題についてのプレゼン資料制作2	保育現場におけるビジュアルプログラミングツールを使ったプログラミング教育のカリキュラム案と教材についてのプレゼン資料の作成
28	課題についてのプレゼン発表・まとめ	プレゼン発表と相互評価、まとめ
29	後期確認テスト	テストを実施する
30	総まとめ	テストの振り返りと1年間の総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	デザイン実践Ⅱ(PC実践)		
必修選択	選択必修	(学則表記)	デザイン実践Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	"入社1年目ビジネスマナーの教科書"☒		出版社	プレジデント社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	①社会人として必要なビジネススキルを身につける ②保育現場のICT化について学び、アプリの活用方法について身に付ける
到達目標	一般的なビジネススキルと共に、保育教育現場でのマナーやルールを身につける。 実際の保育現場で活用されるアプリを使用し、保護者への発信方法ややり取りについて学ぶ。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	なし
関連科目	デザイン実践Ⅰ・デザイン実践Ⅲ・デザイン実践Ⅳ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	岩月　里江子
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	授業ガイダンス	授業の概要、到達目標の説明
2	基本のビジネスマナー①	基本の身だしなみ・立ち居振る舞い・自己紹介
3	基本のビジネスマナー②	来客対応、名刺交換、お茶出しマナー
4	コミュニケーション	話し方・聞き方について
5	電話応対	電話応対（受け方、かけ方、保留等）
6	一般的なクレーム対応	クレーム対応（保護者以外）
7	ビジネス敬語	ビジネス敬語の使い方
8	ビジネスメール	ビジネスメールの作成ルールや活用のルール

9	冠婚葬祭マナー 食事のマナー	冠婚葬祭の際のマナーや会食の時などの食事のマナー
10	先輩、上司との関わりかた	指示の受け方、報連相について
11	保護者対応①	保護者との関わり方（相談の受け方）
12	保護者対応②	保護者との関わり方（伝え方）
13	保護者対応③	保護者との関わり方（クレーム対応、お詫びの仕方）
14	社会人モラル	基本的な社会人モラル
15	保育者モラル	保育者としてのモラル まとめのテスト実施
16	基本の文書作成１	文書の基本、社内向け文書の作成（報告書、提案書、依頼書）
17	基本の文書作成２	社外向け文書の作成（依頼書、お礼状、お詫び状、送付状） こどもんアプリの説明
18	保育教育現場の文書作成１	園からのお知らせ、行事のお知らせ作成①
19	保育教育現場の文書作成２	園からのお知らせ、行事のお知らせ作成②（PC／こどもんアプリにて作成）
20	保育教育現場の文書作成３	連絡帳記入（PC／こどもんアプリにて作成）
21	雛型への入力	月案の作成（PC／こどもんアプリにて作成）
22	オリジナル文書の作成１	クラスだより作成①
23	オリジナル文書の作成２	クラスだより作成②
24	聞き取った内容をまとめる	議事録作成
25	計画書の作成①	行事計画の作成①
26	計画書の作成②	行事計画の作成②
27	招待状等の作成	招待状・プログラムの作成
28	エクセルを活用した表の作成	勤務表作成
29	報告書の作成・確認テスト	研修報告書作成 後期小テスト実施
30	まとめ	まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	デザイン実践Ⅲ(キッズデジタルツール演習)		
必修選択	選択必修	(学則表記)	デザイン実践Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材			出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	①SNSなどの活用においての個人情報の取り扱いについて学ぶ ②PCを用いた動画編集スキルを学ぶ
到達目標	・個人情報の重要性を知り、SNSの使用できる方法を学ぶ ・写真撮影や動画編集スキルを学び、アウトプットできる力を身につける ・保育技術を動画編集を用いて発信できるスキルを身につける
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	なし
関連科目	デザイン実践Ⅰ・デザイン実践Ⅱ・デザイン実践Ⅳ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	高橋　夏
実務経験	○
実務内容	映像または写真制作経歴10年

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	授業ガイダンス	オリエンテーション・個人情報
2	SNSについて	SNS／WEBを学ぶ（Twitter・Instagram・YouTube・HP・著作権・肖像権・個人情報など）
3	SNS配信について	SNS／WEBでの写真アップ・動画配信方法を学ぶ
4	動画編集方法	動画編集を学ぶ（Filmoraの使い方）
5	動画編集①	制作物立案・作成①
6	動画編集①	制作物立案・作成②
7	動画編集①	制作物立案・作成③
8	動画編集①	制作物立案・作成④

9	動画編集①	動画作成①（作品をデータ化・取り込み）
10	動画編集①	動画作成②（文字入れ・アニメーションを入れる）
11	動画編集①	動画作成③（音声の入れ方）
12	動画編集①	動画作成④（全体編集）
13	動画編集①	発表
14	動画編集①	反省をふまえ・動画の改善・配信（YouTubeやInstagramなど）準備
15	動画編集①	授業の振り返り（前期まとめ）
16	写真撮影	写真撮影について学ぶ　※カメラマンなどからの授業
17	写真撮影	学内にて写真撮影・動画撮影の練習
18	写真撮影	保育現場にて写真撮影実施
19	動画編集②	保育現場にて動画撮影実施
20	動画編集②	動画編集における写真及び動画の精査
21	動画編集②	撮影した写真・動画の編集①
22	動画編集②	撮影した写真・動画の編集②
23	動画編集②	撮影した写真・動画の編集③
24	動画編集②	撮影した写真・動画の編集④
25	動画編集②	中間発表
26	動画編集②	動画編集・再編集①
27	動画編集②	動画編集・再編集②
28	動画編集②	完成版動画発表
29	動画編集②	撮影した保育園へ動画を提供・配信
30	まとめ	学習の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	デザイン実践Ⅳ(保育IT実践)		
必修選択	選択必修	(学則表記)	デザイン実践Ⅳ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	30時間でマスターoffice 2019 or 2021 （各校PCのバージョンによる選択） パソコン技能検定　対策問題集２級		出版社	実教出版企画開発部 ユアサポート	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	保育現場で必要とされるパソコン・ITスキルの応用を理解する
到達目標	パソコン技能検定2級に合格する 画像や図形を使った文書作成ができる 関数やグラフを使った表計算を作成できる
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	パソコン技能検定2級～3級
関連科目	デザイン実践Ⅰ・デザイン実践Ⅱ・デザイン実践Ⅲ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	田口　竜馬
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション インターネットを安全に利用するために	授業の流れ、到達目標、成績評価の基準について説明 ・P30～31 ・インターネット利用上の注意、ネチケット、著作権について
2	試験対策①	・学科問題、入力問題、文書作成、表計算それぞれ問題集から演習を行う ・学科問題の傾向と対策、演習
3	試験対策②	・学科問題、入力問題、文書作成、表計算それぞれ問題集から演習を行う ・学科問題の傾向と対策、演習
4	試験対策③	・学科問題、入力問題、文書作成、表計算それぞれ問題集から演習を行う ・学科問題の傾向と対策、演習
5	試験対策④	・文書作成の演習 ・ページ設定、インデント設定、中央揃え、ルビの設定
6	試験対策⑤	・文書作成の演習 ・セル幅で均等割り付け、割注、段組み
7	試験対策⑥	・文書作成の演習 ・図形の挿入、表の属性、オンライン画像、罫線

8	試験対策⑦	・表計算問題の演習 ・列の幅や高さの設定、罫線
9	試験対策⑧	・表計算問題の演習 ・関数、絶対参照
10	試験対策⑨	・表計算問題の演習 ・関数、絶対参照
11	試験対策⑩	・表計算問題の演習 ・グラフの作成
12	試験対策⑪	・表計算問題の演習 ・グラフの作成
13	試験対策⑫	模擬試験
14	試験対策⑬	模擬試験
15	前期まとめ	前期の振り返りまとめを行う
16	文書の作成	・P53～62 ・基本的な文書の構成、文字の拡大・縮小、文字の装飾
17	表の編集	・P69～76 ・行の挿入と削除、セルの結合と配置、線種の変更、セルの網掛け、表のスタイル、表のプロパティ
18	画像や図形を活用した文書の作成	・P77～90 ・ページの色、ページ罫線の利用、ワードアートの利用、文字の効果、図形の描写と回転、
19	画像や図形を活用した文書の作成	・P77～90 ・画像の挿入と配置とサイズ変更、文書表示倍率の変更、テキストボックスの挿入
20	基本的なワークシート編集	・P112～119 ・計算式の入力、再計算と演算子、表示形式の変更、列幅の変更、表示位置の変更、書式の変更
21	関数を使った計算式	・P120～127 ・合計（SUM）、平均（AVERAGE)、最大（MAX）、最小（MIN）、数を数える（COUNT・COUNTA）
22	関数を使った計算式	・P120～127 ・合計（SUM）、平均（AVERAGE)、最大（MAX）、最小（MIN）、数を数える（COUNT・COUNTA）
23	小数点とセルの参照	・P128～133 ・パーセントスタイルと小数部表示の調節、小数点を操作する関数、相対参照と絶対参照、割合を求める
24	小数点とセルの参照	・P128～133 ・パーセントスタイルと小数部表示の調節、小数点を操作する関数、相対参照と絶対参照、割合を求める
25	グラフ	・P142～151 ・グラフの作成、、項目の追加、離れたデータを使ったグラフ
26	条件判定と順位付け	・P152～160 ・条件判定（IF）、IF関数の使い方、複合条件による判定、順位付け（RANK.EQ）
27	検索関数の利用	・P161～167 ・列の検索（VLOOKUP)、条件に一致するセルの計算（COUNTIF・SUMIF）
28	Excelの便利な機能	・P168～179 ・セルの参照機能、文字列の結合、セルの条件付き書式、並べ替え
29	Excelの便利な機能	・P178～185 ・フィルター、セルの結合
30	後期まとめ	後期の振り返りまとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実習	科目名	インターンシップ		
必修選択	選択	（学則表記）	インターンシップ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	90
使用教材			出版社		

科目の基礎情報②			
授業のねらい	責任のある立場での職業体験を通じて、働くことの意義や厳しさを体感し、就職活動の幅を広げる。		
到達目標	・実際の現場の体験を通じて、自分自身の適性の確認をする。 ・自分の力を発揮できる就職先を見つける。		
評価基準	提出物や面接結果（70%）および参加姿勢（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。		
関連資格	なし		
関連科目	なし		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	伊野　陽子	実務経験	
実務内容			